

九州共立大学

大学院

2020年度

講義要項



九州共立大学の建学の精神

《自律処行》

(自らの良心に従い、事に処し善を行なう)

九州共立大学の建学の精神である「自律処行」は、学生と教職員が共に立ち、人による人にまでの教育を行なうことを目指した創立者福原軍造が創造したことばである。

「自律」とは、自己の志向や行為を道に照らし、我情・我欲・我見による不正を制することであり、「処行」とは、事に処するに徳を以てし、知性にかなう道を行なうことである。

この2語を併せた「自律処行」は、自らの良心に従い、事に処し善を行なうことを表している。

【九州共立大学の目的】

本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神「自律処行」に基づいて、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開し、もって人格の完成をめざし健全な国民を育成することを目的とする。

【学 是】

本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行なうことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自分の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。

【大学院の人材養成及び教育研究上の目的等】

スポーツ学研究科スポーツ学専攻

スポーツ学研究科は、高い専門性と実践力を持ち、地域社会ひいては世界のスポーツ振興に貢献できる人材を育成することを目的とする。スポーツ学専攻は、広範なスポーツ学の専門的知識を自身の専門分野に合わせて体系化することができ、自らの探求心を基に構築された理論的な指導法及び高い実践力を有する高度専門的職業人を養成することを目的とする。

【大学全体の三つの方針】

〔卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）〕

本学は、学是「自律処行（自らを律することができ、自ら考えて判断し、責任を持って行動する）」を体现し、総合的な教養、特定専門分野に関する知識を身につけ、深い考察力を備えることを目指す。

その実現のために、卒業認定・学位授与の方針（DP）を3つの領域（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性）から構成し、各課程を修め、目標を達成した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

知識・技能
キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。
思考力・判断力・表現力
本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。
主体性・協働性
自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。

〔教育課程編成・実施の方針（CP：カリキュラム・ポリシー）〕

本学では、学生が大学の卒業認定・学位授与方針（DP）の目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

教育内容
1. 総合共通科目は、「教養教育科目」、「キャリア教育科目」を中心に、現代社会を生き抜くために必要不可欠な幅広い教養、および基礎学力等を体系的に学べるように科目を配置する。 2. 専門教育科目は、各学部・学科の専門的知識を修得するために、基礎的内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。また、学問領域を超えた学際的な知識修得科目を配置する。
教育方法
1. 学生の主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）が実現されるように、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 2. 学外実習等を通じて体験的な学修活動を実施する。
教育評価
1. 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価方法に従い単位を付与する。 2. 学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たすことを含め、総合的に評価する。

〔入学者受け入れ方針（AP：アドミッション・ポリシー）〕

本学は、学是「自律処行（自らを律することができ、自ら考えて判断し、責任を持って行動する）」を体现し、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げた目標を強い意志を持って達成しようとする人を受け入れる。

また、高等学校もしくは中等教育学校において、基礎学力と基本的な学修習慣を有し、特に国語を通じて、読む、聞く、話す、書くという表現力、発信力、コミュニケーション能力の基礎を身につけ、それぞれの学科が必要としている「基礎的な知識・技能の修得」、「課題を解決するための思考力・判断力・表現力」、「主体的に学修に取り組む態度」を有し、さらに教育課程編成・実施の方針（CP）をよく理解し、各学科の教育目標に応えて真摯に学問修得に励む人を広く求める。

【大学院 スポーツ学研究科（スポーツ学専攻）の三つの方針】

〔卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）〕

スポーツ学研究科は、スポーツ指導・健康づくり分野での多様な知識を身につけ、広範なスポーツ学の専門的知識を自身の専門分野に合わせて体系化することができ、自らの探求心を基に構築された理論的な指導法および高い実践力を有する高度専門的職業人を養成することを目指す。この基本理念をもとに、以下を満たした学生に修了を認定し、学位を授与する。

知識・技能
修士（スポーツ学）として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。
思考力・判断力・表現力
専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。
主体性・協働性
専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。

〔教育課程編成・実施の方針（CP：カリキュラム・ポリシー）〕

スポーツ学研究科は、大学の教育課程編成・実施の方針（CP）に掲げる目標を達成するために、基礎科目、共通科目、専攻科目、修了研究科目を体系的に編成し、科目を配置する。

教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。

教育内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ教育領域、コーチング領域、健康フィットネス領域、アスレティックトレーニング領域の4領域で構成し、課題探求能力と課題解決能力を身につけるよう系統的に科目を配置する。 2. 専攻科目では4領域とも「特論」とそれに対応する「現場演習」科目を置く。「特論」と「現場演習」の組み合わせ履修により、高度な専門的知識を修得させるとともに高度な実践的指導力の形成を図る。 3. 1年次にスポーツ学の研究方法、手順を学ばせる「スポーツ学研究概論」（基礎科目）を配置する。修了研究科目として「修了研究Ⅰ」（1年次）、「修了研究Ⅱ」（2年次）を配置し、文献や議論等を通して学んだ知識や、修得した知識や技能等を生かし、担当教員の指導のもと自らの領域における研究テーマを設定し修士論文を完成させる。 これらの科目を通して、高い専門性と高度な実践的指導力を有し、「課題探求能力」、「課題解決能力」を有した人材を育成する。
教育方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義、演習科目はアクティブラーニング形式を取り入れ、双方向型の授業を実施し、主体的な課題探求、解決能力を育成する。 2. 「特論」と「現場演習」の組み合わせにおいては現場の課題を抽出し、自らの課題を主体的に探求し、解決する能力を身につけさせる。そのため、授業時間外においても学生と密接に関わり、個別指導を実施する。
教育評価
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。 2. 2年間の学修成果は、修了研究（必修）によって行い、総合的に評価する。

〔入学者受け入れ方針（AP：アドミッション・ポリシー）〕

スポーツ学研究科は、卒業認定・学位授与の方針（DP）および教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、国際的視野を持って、世界のスポーツシーンで活躍できる高度な専門知識などについて修得する。

入学者には次のような学力を有した人を求める。

知識・技能
スポーツ科学に関する知識や技能を身につけており、自ら探究する学修姿勢を持ち、コミュニケーション能力と基本的な英語読解能力を身につけている。
思考力・判断力・表現力
スポーツ分野で地域社会に広く還元および国際社会でも活躍するために、スポーツについて学術的関心を持ち、実践法を修得する中で、スポーツを多面的・論理的に考え、その内容をわかりやすく説明できる。
主体性・協働性
自己の判断と責任をもって行動し、地域スポーツの発展やスポーツ振興へ貢献し、またグローバルな視野に立つための強い意欲がある。

九州共立大学 大学院 スポーツ学研究科 シラバス目次

【基礎科目】

スポーツ学研究概論	1
-----------	---

【共通科目】

スポーツ科学特論	2
スポーツ運動・方法学特論	3
スポーツ心理学特論	4
スポーツマネジメント特論	5
スポーツ科学分析特論	6
スポーツ社会学特論	7
トレーニング科学特論	8
地域スポーツマネジメント演習	9

【専攻科目】

保健体育科教育法特論	10
保健体育科教育法現場演習	11
健康教育学特論	12
発達教育心理学特論	13
武道学特論	14
コーチング特論	15
コーチング現場演習	16
スポーツ栄養学特論	17
ストレンクス&コンディショニング演習	18
健康・長寿特論	19
ヘルスプロモーション現場演習	20
体力科学特論	21
健康・体力支援演習	22
アスレティックトレーニング特論	23
アスレティックトレーニング現場演習	24
スポーツ医学特論	25
機能解剖学特論	26
アスレティックリハビリテーション演習	27

【修了研究科目】

修了研究Ⅰ（前期）	28-29
修了研究Ⅰ（後期）	30-31
修了研究Ⅱ（前期）	32-33
修了研究Ⅱ（後期）	34-35

「科目区分の略号表」

(2018年度以降入学生)	専門教育科目	基礎科目	
		共通科目	
		専攻科目【スポ教育】	スポーツ教育領域
		専攻科目【コーチング】	コーチング領域
		専攻科目【健康フィットネス】	健康フィットネス領域
		専攻科目【アスレティック】	アスレティックトレーニング領域
		修了研究科目	

授業科目名 (Subject)		スポーツ学研究概論 Introduction for Research of Sports			単位数	授業内容**			
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshinari)		八板 昭仁 (YAITA Akihito)		専任			
授業形式		講義	科目区分	基礎科目	全領域				
配当年次		修士課程1年生	開講学期	前期	領域区分*				
授業概要	スポーツに関する研究論文の種類や構成などを理解するとともに、研究倫理について学ぶ。研究に必要な文献検索、実験、調査、データ処理の手法を修得し、各自の研究テーマに展開させることのできる能力を養う。また、研究レポートおよび論文作成、発表方法の基盤を作りあげる。各研究指導教員の専門分野に応じた内容を盛り込みながら教授する。						1	論文を書く意義 論文の構成、決まりごとについて 予復修課題：研究内容を正當に評価してもらうために必要なことをまとめる。	
							2	スポーツ学とは。スポーツ学関連論文の種類と構成 予復修課題：論文の決まりごとを意識して指定文献を読み、まとめる。	
							3	スポーツ学とは。スポーツ学関連論文の種類と構成 予復修課題：論文の決まりごとを意識して指定文献を読み、まとめる。	
							4	スポーツ学の研究倫理 倫理的妥当性を考える 予復修課題：被験者の利益・不利益について考えをまとめる。	
授業到達目標	研究倫理を理解し、実践できる。スポーツ学研究に関する文献検索、実験、調査、データ処理の基本を体得する。基礎的な研究レポートの作成と発表ができる。						5	文献検索の方法 複数の検索システムを試す 予復修課題：指定されたキーワードで文献を検索し、熟読する。	
							6	研究テーマ・リサーチクエスチョンの設定 予復修課題：先行研究から自分の研究テーマの課題を見つける。	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)									
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								7	研究テーマ・リサーチクエスチョンの設定 予復修課題：先行研究から自分の研究テーマの課題を掘り下げる。
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。								8	実験・調査法の基本 自分の研究テーマの一般的実験方法、調査方法について 予復修課題：汎用されている手法について調べ、自分の研究に組み入れられるか検討する。
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。								9	データ処理の基本 自分の研究テーマの一般的なデータ収集方法、処理方法について 予復修課題：汎用されている手法について調べ、自分の研究に組み入れられるか検討する。
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				10	論文の書き方・まとめ方 自分の研究テーマの一般的な書き方、まとめ方について 予復修課題：指定された論文を読み込み、改善してみる。
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予復修で180分の学修を目安とすること。					11	プレゼンテーション技法 自分の研究テーマの一般的な発表方法について 予復修課題：指定された発表媒体を読み込み、改善してみる。
1. 小テスト、感想文など		%						12	リサーチクエスチョンの解決手法 第6、7回のリサーチクエスチョンを解決する手法についてデザインする 予復修課題：実現可能を前提に複数の案を考える。
2. 中間テスト		%						13	リサーチクエスチョンの解決手法 第6、7回のリサーチクエスチョンを解決する手法についてデザインする 予復修課題：実現可能を前提に複数の案を考える。
3. 課題レポートなどの提出物		15 %						14	研究計画レポートと発表媒体作成 他領域と合同で行う(アクティブ・ラーニング形式) 予復修課題：他領域の方の意見も取り入れ、修正してくる。
4. 授業中の発表、討論		10 %						15	研究計画レポート発表 他領域と合同で行う 予復修課題：他領域の方の発表内容を把握し、自分の研究デザインへ活かす。
5. 授業への参加意欲		5 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)		%							
7.		%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング							
1. まとめのテスト		%	研究指導教員との授業であるので、すべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、第14回は他領域との学び合い形式である。						
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %							
3.		%							
再評価の実施		する	しない						
教科書									
参考書 宮野公樹『学生・研究者のための使える! PowerPointスライドデザイン』化学同人(2009)									

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 ** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ科学特論 Special lecture on sports science			単位数	授業内容**	
担当者		得居 雅人 (TOKUI Masato)			2	1 授業の概要の説明 予復修課題： 大学で学んだ、スポーツ生理学・バイオメカニクスを復習する。	
授業形式		講義	科目区分	共通科目	専任	2 身体運動の効率について 予復修課題： 研究テーマのプレゼンテーションの準備1	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	前期		領域区分*	
授業概要		人は、食物から得た生理的エネルギーによって筋収縮を起こし、身体運動の力学的エネルギーに変換している。それに関わる身体諸器官の滑らかな調節と連携により、スポーツ運動は遂行される。本講義では、力学・生理学・解剖学等の基礎諸科学の知識の上に、スポーツ生理・バイオメカニクスの法則を学び、スポーツ運動のメカニズムを総合的に理解する。			3 各自の研究テーマの発表 予復修課題： 研究テーマのプレゼンテーションの準備2		
授業到達目標		本講義で学習するスポーツ運動時の身体の生理・バイオメカニクスのなはたらきや変化、トレーニング効果について、記述して説明することができる。			4 有酸素運動の効率 自転車エルゴメーターを用いた有酸素運動時の消費エネルギーと発揮パワーの測定 予復修課題： レポート1: 有酸素系、ATP-PCr系、ミトコンドリア、糖質、脂質		
修了認定・学位授与の方針 (DP) と授業到達目標との関係 (特に関係する 関係する)					5 有酸素運動時の効率の理解 予復修課題： データの分析		
【知識・技能】 修士 (スポーツ学) として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					6 無酸素運動の効率 自転車エルゴメーターを用いた無酸素運動時の消費エネルギーと発揮パワーの測定 予復修課題： レポート2: 解糖系、無酸素性作業閾値 (AT、LT)、乳酸		
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					7 無酸素運動時の効率の理解 予復修課題： データの分析		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					8 瞬発的な運動の発揮パワー 各種ジャンプ力の測定 予復修課題： レポート3: 弾性エネルギー、ストレッチ・ショールディング・サイクル、プライオメトリックス		
成績評価の方法 (全体で100%)		履修における留意事項			9 瞬発的な運動の理解 予復修課題： データの分析		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	スポーツ生理学、スポーツバイオメカニクスが基礎になります。十分に理解を深めておくこと。 毎回60分の予修が必要である。			10 プライオメトリックスの歴史と概要 予復修課題： 関係する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。	
1. 小テスト、感想文など		%				11 プライオメトリックスの基礎 予復修課題： 関係する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。	
2. 中間テスト		%				12 プライオメトリックスと体幹の筋活動 予復修課題： 関係する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。	
3. 課題レポートなどの提出物		25 %				13 プライオメトリックスの上肢への応用 予復修課題： 関係する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。	
4. 授業中の発表、討論		25 %				14 プライオメトリックスのトレーニングへの応用 予復修課題： 関係する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。	
5. 授業への参加意欲		25 %				15 予復修課題： 関係する論文を読み、プレゼンテーションを作成する。	
6. 自主的学習 (予習・復習など)		25 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	生理・バイオメカニクスの基礎知識をレポートにまとめる。				
2. 論文、まとめのレポートなど		%	測定結果を分析し、発表する。(5,7,9回目)				
3.		%	論文を読み、発表する。(10-15回目)				
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ運動・方法学特論 Sports Kinematics and Sport Methodology			単位数	授業内容**	
担当者	八板 昭仁 (YAITA Akihito)			専任	1	ガイダンス 1)授業の進め方 2)評価について 3)講義の概要説明 4)受講における注意事項 予復修課題： 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)	
授業形式	講義	科目区分	共通科目	領域区分*	2	2	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期			2	
授業概要	スポーツ実践における運動観察力(自己観察、他者観察)、運動共感力の重要性を認識し、生徒や選手が動き方を身に付けるために役立つ知識について学習位相、運動質を中心に検討する。さらに、スポーツにおける技術が“理想的な運動”であることを理解し、多くのスポーツ種目において基本原則に叶った正しい運動によって成果が上がることを学習する。運動・スポーツにおいて指導者が運動観察力を身に付けることの重要性を理解し、運動の仕方を指導する指導実践の方法を学習する。				3	3	
	スポーツ運動の学習位相におけるそれぞれの段階や特徴を理解し説明できる。スポーツ運動の質的な特性を理解し、スポーツ技術を説明することができる。運動観察によってスポーツ実践上の問題点や課題を理解し、課題に応じた指導に結びつけることができる。				4	4	
授業到達目標	スポーツ運動の学習位相におけるそれぞれの段階や特徴を理解し説明できる。スポーツ運動の質的な特性を理解し、スポーツ技術を説明することができる。運動観察によってスポーツ実践上の問題点や課題を理解し、課題に応じた指導に結びつけることができる。				5	5	
	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				6	6	
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身に付け、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7	7		
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				8	8		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				9	9		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、様々な意見について論理的に考える。授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復習を行い、疑問点については早期の解決に努める。以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	また、随時プレゼンテーションを行う。				
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。						
参考書	朝岡正雄「スポーツ運動学序説」不昧堂出版 G, Stiehlerほか: 唐木國彦監訳「ボールゲーム指導辞典」大修館書店						
				10	10		
				11	11		
				12	12		
				13	13		
				14	14		
				15	15		

*領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ心理学特論 Advanced Sport Psychology			単位数	授業内容**	
担当者		伊藤 友記 (ITO Tomoki)			2	1 ・スポーツ心理学とは何か ・本講義の目的と内容について説明 予復修課題：スポーツ場面における心理的側面の自身の関心事についてレポートを作成する。	
授業形式		講義	科目区分	共通科目	専任	2 ・スポーツ運動の発達 ・発達の概念、発達の理論、発達段階、身体と運動の発達・認知的発達について学ぶ。 予復修課題：発達についての配布資料を読了し、小レポートを作成し次時に提出する。	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	前期		領域区分*	
授業概要		本講義では大きく以下の8つの領域を設定し、受講者のスポーツ実践や指導に活かせるよう学習を進めていきます。1.スポーツ運動の発達、2.スポーツ技能の学習、3.スポーツの動機づけ、4.スポーツの社会心理、5.競技の実践心理、6.スポーツメンタルトレーニング、7.健康スポーツの心理、8.スポーツ臨床。これらの内容について、最新の知見や実践例などを紹介しながら、理解を深めていくことを目指します。			3 ・スポーツ技能の学習 ・運動学習理論について理解し、効果的な練習方法について学ぶ。 予復修課題：スキーマ理論についての配布資料を読了しておく。		
授業到達目標		1.スポーツ技能の学習について、学習理論や発達の観点から具体的に説明できる。 2.動機づけ理論について理解し、具体例をあげて説明することができる。 3.スポーツ集団と個人の関わりについて理解し、リーダーシップの機能について説明できる。 4.競技における心理的コンディショニングの方法を知り、実践や指導に役立てる事ができる。 5.スポーツ運動が健康の維持・増進にどのような心理的効果があるか説明ができる。 6.スポーツ場面特有の心理的特徴について、臨床学的視点から捉えることができる。			4 ・スポーツの動機づけ ・動機づけの概念、内発的動機づけ、達成目標理論について学ぶ。 予復修課題：自身のスポーツとの関わりについて、動機づけの観点から振り返り小レポートを作成する。		
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					5 ・スポーツの動機づけ ・運動の楽しさの構造、運動嫌いのメカニズム、学修性無力感について学ぶ。 予復修課題：動機づけ理論に基づいた、望ましいスポーツ指導についてレポートを作成する。		
【知識・技能】		修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			6 ・スポーツの社会心理 ・スポーツ集団、集団の中の個人、集団過程、リーダーシップについて学ぶ。 予復修課題：自身の所属する集団について、学んだ内容からその特性を把握する。		
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。			7 ・競技の実践心理 ・競技の心理的特質、講義の心理的適性、競技のピークパフォーマンスについて学ぶ。 予復修課題：自身の競技実践について、心理的課題を小レポートにまとめて次時に提出する。		
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。			8 ・競技の実践心理 ・コーチングの心理、試合への適応、スポーツキャリア、スポーツ傷害と回復の心理。 予復修課題：配布資料を読了し、感想を小レポートにまとめて提出する。		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			9 ・スポーツメンタルトレーニング(SMT) ・SMTの概念、心理的スキルとトレーニング法、心理的コンディショニングについて学ぶ 予復修課題：自身がこれまでに取り組んできた心理的コンディショニングについてレポート作成		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・授業時に配布される資料には、空欄を埋める箇所があるので、スライドを見ながら用語を記録すること。 ・配布資料や講義の内容を基に、講義ノートを作成すること。必ず大学ノート(A4版またはB5版)を使用すること。 講義ノートの作成と、次時の講義内容についての下調べには、毎時120分程度を要する。			10 ・スポーツメンタルトレーニング(SMT) ・競技種目別メンタルトレーニング、コーチのためのメンタルトレーニングについて学ぶ 予復修課題：選手または指導者の立場に立って、SMTプログラムを作成する。	
1. 小テスト、感想文など		10 %				11 ・健康スポーツの心理 ・運動の心理的・社会的効果、運動の身体的効果、行動変容理論・モデル 予復修課題：健康運動を指導する立場から、運動の継続に繋がるアプローチについてレポートする	
2. 中間テスト		%				12 ・スポーツ臨床 ・スポーツカウンセリング、スポーツ臨床の方法・見方 予復修課題：配布資料のスポーツ臨床の事例を読了しておく。	
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				13 ・スポーツ臨床 ・心理臨床の技法、スポーツ臨床の対象、スポーツセラピーについて学ぶ。 予復修課題：配布資料のスポーツ臨床の事例を読了しておく。	
4. 授業中の発表、討論		10 %				14 ・スポーツ臨床 ・スポーツカウンセラーの養成、資格、研修について学ぶ。 予復修課題：スポーツ臨床に携わる職種として何があるかを調べてくる。	
5. 授業への参加意欲		10 %				15 ・授業の総括 ・学習した内容全てを振り返り、スポーツ心理学の可能性を考える。 予復修課題：学習内容のうち、一番印象に残った内容について、自身の考えをレポート作成する。	
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	・随時研究に関するディスカッション、各自のテーマについての発表や質疑を行います。				
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		日本スポーツ心理学会編『最新 スポーツ心理学 その軌跡と展望』大修館書店、2004					
参考書		杉原隆『新版 運動指導の心理学 運動学習とモチベーションからの接近』大修館書店、2008 R.A.シュミット『運動学習とパフォーマンス 理論から実践へ』大修館書店、1994					

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツマネジメント特論 Sports Management			単位数	授業内容**	
担当者		萩原 悟一 (HAGIWARA Goichi)			2	1 オリエンテーション : 学習の目的, 授業計画・授業内容などの説明 予復修課題: シラバスの読み込み	
授業形式		講義	科目区分	共通科目	非常勤 講師	2 スポーツ経営管理学をめぐる社会的背景 予復修課題: 配布資料を抄読	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	後期		領域区分*	全領域
授業概要		学校や地域社会, 民間スポーツ・フィットネスクラブ, 及びプロスポーツ組織等におけるスポーツの文化的普及に必要な経営学の基礎理論を学習し, 体育・スポーツ経営の実践能力の基盤となる専門的知識について学習する。特に, 学校や地域社会における体育・スポーツ事業の構成方法や演出方法についての理解を深めると同時に, 効果的・効率的な生涯スポーツの振興を図るための経営過程論についても理解する。				3 スポーツ組織経営の発展: スポーツ関連産業(1) スポーツ用品・用具産業 予復修課題: 配布資料を抄読	
授業到達目標		体育・スポーツの文化的価値とは何かについて説明できる; 体育・スポーツ経営とはどんな学問なのかを説明できる; 体育・スポーツ経営とはどのような場面で役に立つのかを判断できる; 体育・スポーツ事業に関する知識と技術を説明でき, そうした知識と技術を活かした体育・スポーツ経営を実践できる; 学校の体育経営や地域スポーツ経営民間スポーツ・フィットネスクラブ経営, 及びプロスポーツ経営などの分野に寄与できる。				4 スポーツ組織経営の発展: スポーツ関連産業(2) スポーツ施設・サービス産業 予復修課題: 配布資料を抄読	
		修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				5 コーチカターから学ぶマネジメントとは リーダーシップ理論 予復修課題: 配布資料を抄読	
【知識・技能】		修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6 スポーツ関連組織のマネジメント(1) リーダーシップスタイル 予復修課題: 配布資料を抄読	
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				7 スポーツ関連組織のマネジメント(2) モチベーション・マネジメント 予復修課題: 配布資料を抄読	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				8 スポーツチームのマネジメント(1) クラブ・チームの運営事業のビジネス・プロセス 予復修課題: 配布資料を抄読	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				9 スポーツチームのマネジメント(2) クラブ・チームの概念的枠組み 予復修課題: 配布資料を抄読	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予習用に配布する資料は授業内で内容を発表してもらおう。 パワーポイントの使用法を熟知しておくことよい。 事前に配付する資料について予復修を約1時間おこなうことにより一層理解が深まります。			10 スポーツリーグのマネジメント 予復修課題: 配布資料を抄読	
1. 小テスト、感想文など		30 %				11 組織行動と発展(1) 組織の統治と経営戦略 予復修課題: 配布資料を抄読	
2. 中間テスト		%				12 組織行動と発展(2) SWOT分析・PEST分析 予復修課題: 配布資料を抄読	
3. 課題レポートなどの提出物		20 %				13 スポーツ関連産業(2) 地域スポーツクラブ・スポーツ施設管理 予復修課題: 配布資料を抄読	
4. 授業中の発表、討論		20 %				14 自主課題プレゼンテーション(1) 予復修課題: 配布資料を抄読、自己学習によるプレゼンテーションの作成	
5. 授業への参加意欲		10 %				15 自主課題プレゼンテーション(2) 予復修課題: 配布資料を抄読、自己学習によるプレゼンテーションの作成	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	プレゼンテーションを実施する(第14回~第15回)				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書		資料は都度、配布する					

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ科学分析特論 Advanced Lectures in Analysis of Sports Science				単位数	授業内容**	
担当者		小屋 菜穂子 (KOYA Nahoko)				2	1	何をどのように測るか？測定の意味について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
授業形式		講義	科目区分	共通科目	領域区分*	全領域	2	関連文献の抄読 対象に適した測定方法について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
配当年次		修士課程1年生	開講学期	後期			3	関連文献の抄読 目的に適した測定方法について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
授業概要		競技パフォーマンスの向上を目指した体力・運動能力に関する基礎的および先端的な科学研究の方法を理解し、修得する。					4	関連文献の抄読 測定結果の評価について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
授業到達目標		体育・スポーツ分野で必要な測定分析方法と評価方法を実践する。体力学領域における知識、研究対象の設定方法、研究方法、測定分析方法、評価方法を理解できる。					5	学校体育における測定分析方法 新体力テストについて 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
		修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					6	学校体育における測定分析方法 新体力テストの分析・評価について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
【知識・技能】		修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7	体育の評価基準の分析方法 数値で評価できる項目の統計的手法について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					8	体育の評価規準の構成方法 数値で評価できない項目の統計的手法について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					9	スポーツパフォーマンスにおける測定分析方法 筋力に関する項目について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					10	スポーツパフォーマンスにおける測定分析方法 パワーに関する項目について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	配布された資料・英語文献等、あらかじめ熟読したうえで授業に参加すること。 講義の進捗に応じて、受講者との相談の結果、授業内容を変更する可能性がある。 予復修は120分を目安とする。				11	スポーツパフォーマンスにおける測定分析方法 持久力に関する項目について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング プレゼンテーション、ディスカッション、ピアティーチングなど。				12	スポーツパフォーマンスにおける測定分析方法 調整力に関する項目について 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
再評価の実施		する	しない				13	スポーツパフォーマンスにおける体力評価について スポーツ種目に応じた評価方法(個人種目) 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
教科書		授業時に指示					14	スポーツパフォーマンスにおける体力評価について スポーツ種目に応じた評価方法(集団種目) 予復修課題：講義概要の確認と実施内容のまとめ・確認
参考書		(田中・西嶋編)『身体活動科学における研究方法』NAP 2004 (高松薫)『体力トレーニング論』大修館書店 2019					15	まとめのプレゼンテーション 予復修課題：プレゼンテーションの準備・確認

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ社会学特論 Sport Sociology			単位数	授業内容**	
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)			2	1 オリエンテーション スポーツ社会学が扱う喫緊のテーマについて解説する。 予復修課題： シラバスの確認、スポーツ社会学とは何かを調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。	
授業形式		講義	科目区分	共通科目	専任	2 スポーツ社会学を学ぶ意義 現代スポーツ事情を社会的観点から批判的に検討する。 予復修課題： 現代スポーツ事情を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	後期		領域区分*	全領域
授業概要	本講義では現代スポーツに関する多様なトピックの事象と私たちが暮らす社会との関係性について批判的に検討することにより、現代的ニーズである生涯スポーツ・地域スポーツ等の充実や未来志向的なスポーツの発展に資する学問的基盤を構築する。				3 文化としてのスポーツ 近代スポーツの発祥・成立・発展について、文化の観点から検討する。 予復修課題： 近代スポーツの起源・成立・発展を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。	4 スポーツと政治 近代スポーツの政治的利用について、検討する。 予復修課題： 近代スポーツに関する政治事件を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。	
	授業到達目標	スポーツに関する事象について、社会的視点で批判的に捉えることができる。 スポーツを社会的視点で捉えることで、未来志向的なスポーツ観を持つことができる。 スポーツと社会の関わりについて、自分の考えを整理し、伝え、議論することができる。				5 スポーツと経済 近代スポーツにおける経済活動への波及について、検討する。 予復修課題： 近代スポーツと経済の関係を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。	6 スポーツとメディア スポーツの拡大・発展におけるメディアとの関係性について、検討する。 予復修課題： 近代スポーツとメディアの関係を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 スポーツと教育 近代スポーツと教育の関係性について、検討する。 予復修課題： 近代スポーツと教育の関係を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。			
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				8 スポーツと教育 運動部活動と体罰の関係について、検討する。 予復修課題： 運動部活動と体罰の関係を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				9 スポーツと地域社会 ~地域スポーツ・生涯スポーツ~ 地域・生涯スポーツの重要性とその充実のための基盤整備について、検討する。 予復修課題： 地域・生涯スポーツの重要性を調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本講義では、現代スポーツを社会的視点から批判的に検討するので、新聞やニュース等に日頃から注意し、時事的な情報を得ることが望ましい。				
1. 小テスト、感想文など		%	2) 最終到達度の評価				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		40 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %					
7.		%					
再評価の実施				アクティブ・ラーニング			
する		しない		毎回の授業においては、講義で理論的解説をしたうえで討論を行い、より深い視点でスポーツ社会学の諸事象をとらえる。			
教科書		教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。					
参考書		13 社会のニーズに沿った未来志向的なビジネスの見通しについて、検討する。 予復修課題： スポーツビジネスの現状について調べ(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。					
		14 総括～本講義の振り返り～ 本講義で学んだことを振り返り、プレゼンテーションを実施する。討論・解説も実施。 予復修課題： パワーポイントの作成(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。					
		15 総括～本講義の振り返り～ 本講義で学んだことを振り返り、プレゼンテーションを実施する。討論・解説も実施。 予復修課題： パワーポイントの作成(予修2時間)、講義後、整理し深める(復修2時間)。					

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	トレーニング科学特論 Advanced Course in Training Science				単位数	授業内容**		
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)				2	専任		
授業形式	講義	科目区分	共通科目	領域区分*	全領域			
配当年次	修士課程2年生	開講学期	前期					
授業概要	トレーニング科学に関する国内外の文献から、運動のメカニズム、トレーニングの効果(形態的、機能的、生理的变化等)についての知識を獲得することを目指す。トレーニング方法の歴史的変遷や問題点に関する理解が深まるようにする。				1	オリエンテーション 授業の進行、課題に関する説明、受講生の研究テーマ紹介 予復修課題：予修：次週の授業で使用する論文に関する内容把握と下調べ		
					2	中高年者を対象としたトレーニングに関する論文抄読(1) 予復修課題：予修：翌週分の論文に関する予習(和訳、内容理解)		
授業到達目標	伝統的なトレーニング方法や、新たに提案されたトレーニング方法について理解し、その効果を科学的な知見や手法により見極めるとともに、自ら実践、教唆できる能力を身につける。				3	中高年者を対象としたトレーニングに関する論文抄読(2) 予復修課題：予修：日本語文献、新聞記事の収集		
					4	中高年者を対象としたトレーニングの関連文献の紹介 予復修課題：予修：日本語文献、新聞記事の収集		
到達目標	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				5	中高年者を対象としたトレーニングに関連文献・記事・その他情報の紹介 予復修課題：予修：第2回～5回の文献をまとめる		
					6	中高年者のトレーニングに関する文献的整理 予復修課題：予修：プレゼンテーションの準備		
【知識・技能】	修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7	中高年者のトレーニングに関する問題点と研究課題のまとめ 予復修課題：予修：プレゼンテーションの準備		
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				8	レポートテーマに対するプレゼンテーション 予復修課題：予修：次週の授業で使用する論文に関する内容把握と下調べ		
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				9	競技スポーツを対象としたトレーニングに関する論文抄読(1) 予復修課題：予修：翌週分の論文に関する予習(和訳、内容理解)		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業で課された予復修課題を次週までに必ず行なって来ること。 2度のプレゼンテーションは必須条件とする。				10	予復修課題：予修：日本語文献、新聞記事の収集	
1. 小テスト、感想文など	%	予復修課題については十分な調査を行って授業に参加すること(30～60分程度)。				11	競技スポーツを対象としたトレーニングの関連文献の紹介 予復修課題：予修：日本語文献、新聞記事の収集	
2. 中間テスト	%					12	競技スポーツを対象としたトレーニングの関連文献・記事・その他情報の紹介 予復修課題：予修：第9回～12回の文献をまとめる	
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					13	競技スポーツを対象としたトレーニングに関する文献的整理 予復修課題：予修：プレゼンテーションの準備	
4. 授業中の発表、討論	20 %					14	競技スポーツを対象としたトレーニングに関する問題点と研究課題のまとめ 予復修課題：予修：プレゼンテーションの準備	
5. 授業への参加意欲	20 %					15	レポートテーマに対するプレゼンテーション 予復修課題：なし	
6. 自主的学習(予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%	グループワーク[第2回～第15回]						
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %	プレゼンテーション[第8回、第15回]						
3.	%							
再評価の実施	する	しない						
教科書								
参考書	ストレングストレーニング&コンディショニング(ブックハウスHD)							

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		地域スポーツマネジメント演習 Seminar of Sports Management on Community			単位数	授業内容**		
担当者		山田 明 (YAMADA Akira)			1	1 授業ガイダンス・演習の概要説明・地域スポーツマネジメントの意義		
授業形式		演習	科目区分	共通科目	専任	2 予復修課題： シラバスの確認、地域スポーツの役割を調べ(予修1時間)、演習後内容を深める(復修1時間)。		
配当年次		修士課程2年生	開講学期	前期		2 演習モデル市町村を設定し、地域スポーツの改善に資するマネジメントの準備をする 予復修課題： モデルとしたい市町村のスポーツ事情を調べ(予修1時間)、演習後、資料収集をする(復修1時間)。		
授業概要		現在のスポーツ行政はスポーツ立国戦略及びスポーツ基本法に基づいて実施されている。その理念として、人(観る人、する人、支える人)の重視と連携・協働、生涯スポーツや地域スポーツの重要性が掲げられており、政府や地方自治体によるスポーツ行政の役割が大きなものとなっている。そこで本演習は、地域スポーツの充実の観点から現在の市町村におけるスポーツ事情の改善を目指し、地域スポーツの中心として期待されている総合型地域スポーツクラブの事業計画の策定を通じ地域スポーツマネジメントを学ぶ。			3 1 1		3 モデル市町村におけるスポーツ事情の把握と改善への見通し モデル市町村におけるスポーツ事情の詳細を把握し、改善への見通しをもつ。 予復修課題： モデル市町村のスポーツ事情を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。	
授業到達目標		現代社会における地域スポーツの意義を理解することができる。 市町村におけるスポーツ事情を把握するための必要な資料を収集できる。 収集した資料に基づき、スポーツ事業(年間計画)を策定することができる。 収集した資料に基づき、スポーツ事業(個別計画)を策定することができる。 策定したスポーツ事業に対する評価票を作成することができる。 地域スポーツマネジメントの意義と方法を体得することができる。			4 1 1		4 モデル市町村のスポーツ施策の現状分析 スポーツ施策に関する総合型地域スポーツクラブの運営状況を把握する。 予復修課題： モデル市町村のスポーツ施策の現状を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。	
【知識・技能】		修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			5 1 1		5 モデル市町村のスポーツ施策における課題分析 モデル市町村のスポーツ施策における課題を分析し、改善へのポイントを把握する。 予復修課題： モデル市町村のスポーツ施策における課題を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。	
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。			6 1 1		6 モデル市町村のスポーツ施策における解決策の検討～総合型地域スポーツクラブ～ 市町村のスポーツ施策の改善を総合型地域スポーツクラブを通して検討する。 予復修課題： 総合型地域スポーツクラブの課題を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。			7 1 1		7 総合型地域スポーツクラブの年間事業計画を策定 当該モデル市町村におけるスポーツ施策の改善に資する年間事業計画を策定する。 予復修課題： 年間事業計画策定に活用する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			8 1 1		8 総合型地域スポーツクラブの年間事業計画を策定 当該モデル市町村におけるスポーツ施策の改善に資する年間事業計画を策定する。 予復修課題： 年間事業計画策定に活用する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	演習に際し、スポーツに関する以下の項目を把握しておいた方が望ましい。			9 1 1		9 総合型地域スポーツクラブの年間事業計画を策定 当該モデル市町村におけるスポーツ施策の改善に資する年間事業計画を策定する。 予復修課題： 年間事業計画策定に活用する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。
1. 小テスト、感想文など		%	スポーツ基本戦略			10 1 1		10 スポーツ事業・イベント等の企画を通して、スポーツ事情を改善する 予復修課題： 個別事業計画策定に活用する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。
2. 中間テスト		%	スポーツ基本法			11 1 1		11 総合型地域スポーツクラブの個別事業計画を策定 スポーツ事業・イベント等の企画を通して、スポーツ事情を改善する 予復修課題： 個別事業計画策定に活用する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。
3. 課題レポートなどの提出物		40 %	生涯スポーツ			12 1 1		12 総合型地域スポーツクラブの個別事業計画を策定 スポーツ事業・イベント等の企画を通して、スポーツ事情を改善する 予復修課題： 個別事業計画策定に活用する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。
4. 授業中の発表、討論		10 %	地域スポーツ(地域スポーツ論)			13 1 1		13 総合型地域スポーツクラブのスポーツ事業計画(年間・個別)に関する事業評価票作成 演習で策定したスポーツ事業計画に対する評価票の作成 予復修課題： 評価票を作成する資料を調べ(予修1時間)、演習後、補足をする(復修1時間)。
5. 授業への参加意欲		10 %	スポーツマネジメント(スポーツ社会学)			14 1 1		14 総合型地域スポーツクラブのスポーツ事業計画におけるPRチラシ作成 演習で策定したスポーツ事業計画に対するPRチラシの作成 予復修課題： PRチラシ作成のための準備(予修1時間)、演習後、完成させる(復修1時間)。
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %	アクティブ・ラーニング			15 1 1		15 演習の総括～地域スポーツマネジメントの重要性と改善の方法～ スポーツ事業計画(年間計画・個別計画)・評価票・PRチラシ等の提出 予復修課題： 提出物の最終確認(予修1時間)、本演習の振り返り(復修1時間)。
7.		%	スポーツに関する現状を把握したうえで事業計画(総合型地域スポーツクラブ)を立案するにあたり、多様な情報を収集するスキルを演習を通して学ぶ。					
再評価の実施		する	しない					
教科書		教科書は使用せず、適宜、参考資料を配布する。						
参考書								

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		保健体育科教育法特論 Special Lecture on the Methods in Health and Physical Education			単位数	授業内容**	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)		鄭 英美 (JUNG Youngmi)	2	専任	
授業形式	講義(私ハス方式)	科目区分	専攻科目	領域区分*	3	教育	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期				
授業概要	知識基盤社会である21世紀を迎え、個々の教員にも高度専門職業人としての資質が求められる。本科目では、今日的課題である、子供の体力低下、生活習慣病の低年齢化、運動離れ、身体と心の乖離などスポーツ・健康に関する諸問題に対して合理的かつ、科学的対応のできる高い資質を備えた教員(現職教員の再教育を含む)や社会人の養成を目指す。主な内容としては、実際学校体育や保健領域の授業から得られた情報を基に授業分析を行い、よりよい授業づくりが可能な実践的教育方法・技術、評価方法、教材の開発に取り組む。				1	オリエンテーション【担当：鄭 英美】 保健体育科教育特論の授業内容および流れ 予復修課題：保健体育科は何を教える教科なのかまとめる(目的的・手段的)予復修の目安時間:120分	
	授業到達目標	分析的思考を持ち、現代における子供の生活とその実態の調査・分析ができる。諸問題に対して合理的かつ、科学的対応のできる高い資質を習得できる。 「よい授業」に対しての研究・概念を立証できる。 よりよい授業づくりの工夫・改善のための教材開発・実践的指導技術を習得できる。				2	スポーツ科学から見た保健体育科教育【担当：鄭 英美】 スポーツ科学から見た保健体育科教育について目的的・手段的の意味を考える 予復修課題：学習指導要領の変遷について調査 予復修の目安時間:120分
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				3	保健体育科教育の歴史と研究動向(体育科領域)【担当：鄭 英美】 学習指導要領・先行研究分析 発表 予復修課題：保健体育科教育についての先行研究分析 予復修の目安時間:120分		
				4	保健体育科教育の歴史と研究動向(保健領域)【担当：高田 俊也】 学習指導要領・先行研究分析 発表 予復修課題：現代の子供たちの生活の特性について調査 予復修の目安時間:120分		
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				5	現代における子供の生活とその実態の調査・分析(体育科領域から)【担当：鄭 英美】 現場調査・先行研究分析(生活、運動、健康、発育発達など) 予復修課題：現代の子供たちの生活の特性について調査 予復修の目安時間:120分		
				6	現代における子供の生活とその実態の調査・分析(保健領域から)【担当：高田 俊也】 現場調査・先行研究分析(生活、運動、健康、発育発達など) 予復修課題：過程別、子どもの発達についての調査 予復修の目安時間:120分		
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				7	子供の育ちと保健体育の関係性【担当：鄭 英美】 (教育、生活、運動、健康、発育発達など) 予復修課題：小・中・高校のカリキュラム調査 予復修の目安時間:120分		
				8	学校カリキュラムにおける保健体育科教育の位置と役割【担当：鄭 英美】 学習指導要領に変遷(体育科教育の目的、内容、方法、評価) 予復修課題：「良い体育の授業」について調査しておく 予復修の目安時間:120分		
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				9	「良い体育の授業」とは【担当：鄭 英美】 教材の意味・目的、教員の役割 予復修課題：学校体育の現在について調査(問題点) 予復修の目安時間:120分		
				10	「良い保健の授業」とは【担当：高田 俊也】 各自の課題の探索(現状の分析、分野・課題選択) 予復修課題：各自が見つけた体育教育の問題に対して授業改善の探索 予復修の目安時間:120分		
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業(研究活動)に積極的に参加すること。 学外調査・測定・研修・研究会などに積極的に参加すること。 個人の研究課題を設定し研究を進めること。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 院生が自ら学校現場(生徒・教員をめぐる)課題を見つけ、原因、最終的には解決策を見つけ、その課題をもってディスカッションをする。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		30 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	特になし。毎回の授業テーマと関連資料を配布する。						
参考書	高橋健夫他編『新版 体育科教育入門』大修館書店、2010年 日本体育科教育学会編『体育科教育の現在』創文企画、2011年 など 各種プリント						
【主体育性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				11	保健学習の教材教具・学習形態研究【担当：高田 俊也】 教材教具の意味と目的・学習形態の種類と特徴 予復修課題：授業改善・実践的教育方法についての資料の作成 予復修の目安時間:120分		
				12	「良い体育の授業」づくりに向けた授業改善方法【担当：鄭 英美】 「良い体育の授業」に向けて、PDCAサイクルを基に改善と再構築について検討を行う 予復修課題：PDCAサイクルを基に改善と再構築についての資料の作成 予復修の目安時間:120分		
再評価の実施				13	「良い体育の授業」づくりに向けた実践的教育方法【担当：鄭 英美】 「良い体育の授業」の内容を構造化するための5Gの観点から考える。 予復修課題：5Gを基にした「良い体育の授業」についての授業計画書(指導案)の作成 予復修の目安時間:120分		
				14	「良い保健の授業」づくりに向けた授業改善方法【担当：高田 俊也】 「良い保健の授業」づくりに向けて、授業の改善と再構築について事例検討を行う。 予復修課題：保健の知識と健康行動との関係(解る-出来る)、予復修の目安時間:120分		
再評価の実施				15	「良い保健の授業」づくりに向けた実践的教育方法【担当：高田 俊也】 保健教育の内容を構造化するための3つの要点から考える。 予復修課題：健康的なライフスタイルとヘルスプロモーションの理念から予復修の目安時間:120分		

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		保健体育科教育法現場演習 Practicum of Instruction Methods for Physical and Health education			単位数	授業内容**		
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshiya)			1	1 オリエンテーション 本科目の目標、内容、授業方法の説明 予復修課題：		
授業形式		演習	科目区分	専攻科目	専任	2 保健体育科教育法について 「保健体育の授業」と「学習指導要領」の関係について 予復修課題：学習指導要領を熟読しておく。		
配当年次		修士課程1年生	開講学期	後期		領域区分*	3 保健体育授業の年間指導計画について 年間指導計画の考え方と作成方法 予復修課題：年間指導計画の原案を作成する。	
授業概要	本科目は、学校における保健体育の授業を実施する上で、必要とされる技能の獲得や資質の向上を目指して演習形式で授業を展開していく。中学校及び高等学校と連携し、授業視察及び授業実践を通して授業改善に必要な知識と実践力を身につける。				3	4 保健体育授業の年間指導計画作成 地域の中学校・高等学校と連携して、実際に年間指導計画を作成する。 予復修課題：作成した年間指導計画の修正・改善を図る。		
	授業到達目標	教科としての中学校及び高等学校の保健体育の内容について理解し説明できるようにする。中学校・高等学校「保健体育科」の年間指導計画及び学習指導案が作成できるようにする。中学校・高等学校「保健体育科」の授業改善ができるようにする。				5	5 保健体育授業の学習指導案作成 地域の中学校・高等学校と連携して、実際に学習指導案を作成する。 予復修課題：作成した学習指導案の修正・改善を図る。	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔特に関係する 関係する〕					6		6 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。	
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7	7 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					8		8 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。	
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						9	9 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。	
成績評価の方法(全体で100%)					10		10 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。	
履修における留意事項						11	11 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	・学習指導要領の内容を事前に理解しておくこと。 ・学習指導案の作成については、十分に時間をかけること。 ・予復修課題は、1時間以上行うこと。				12	12 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。
1. 小テスト、感想文など		%				13		13 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。
2. 中間テスト		%					14	14 地域の中学校・高等学校の授業視察・授業実践 授業視察・授業実践を通して、授業改善を行う。 予復修課題：授業の改善点を検討する。
3. 課題レポートなどの提出物		%				15		15 授業の総括 これまでの授業を振り返り、まとめをする。レポートを提出する。 予復修課題：演習全体についてふりかえる。
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7. 総合評価		50 %						
2) 最終到達度の評価					アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	学校現場の現状を把握し、授業を自ら企画し、実態を踏まえたうえで演習を行うこと。					
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書					授業の総括			
参考書		中学校学習指導要領(保健体育)、中学校学習指導要領解説(保健体育編) 高等学校学習指導要領(保健体育)、高等学校学習指導要領解説(保健体育編)			15 これまでの授業を振り返り、まとめをする。レポートを提出する。 予復修課題：演習全体についてふりかえる。			

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康教育学特論 Special Lecture on the Methods in Health Education				単位数	授業内容**	
担当者						2	1 健康教育とその社会的背景 健康観の歴史の変遷とその社会的背景。C.E タナー教授の健康教育への思い。 予復修課題：人々は、今まで健康をどう考えて来たか。ターナー教授の健康教育への思い。	
授業形式		講義	科目区分	専攻科目	領域区分*	専任		
配当年次		修士課程1年生	開講学期	前期		2 疫学的健康観に基づいた健康教育 疫学研究の歴史と疫学的思考とは何か、について講義を行う。 予復修課題：疫学とは何か、また、現代社会の健康行動の課題を考へておくこと。		
授業概要	本講義を通して、健康教育の歴史とその社会的背景の理解を深めるための講義を行う。また、健康を科学的に理解するためには疫学的健康観に基づいた内容が必須である。その具体的内容について教授すると共に、WHO(世界保健機関)の国際的健康戦略からみた健康教育、更に学校、地域、産業現場での健康教育とその現代的仮題についての講義を行う。現在健康教育の領域ではヘルス・プロモーションの理念に基づいた内容が展開されており、これからの健康教育はどうあるべきかについて講義を展開する。					3 健康管理と健康教育 健康管理の現状とその課題、また、健康管理と健康教育は両輪であることを講義する。 予復修課題：健康管理の現状と健康教育との関連を思考すること。		
	健康観の歴史の変遷から、健康教育の考え方が発祥したことを理解する。健康教育は何故疫学的な健康観に基づいていなければならないのかについて説明できる。学校、地域、産業現場での健康教育はどのように行われているのか、それぞれの課題を理解し、その課題解決に向けて思考できる能力を涵養する。WHO(世界保健機関)健康戦略について思考し、ヘルス・プロモーションの根拠を説明できる。					4 WHO(世界保健機関)の健康戦略と健康教育 健康憲章の制定とその意義。健康戦略と健康教育。 予復修課題：健康憲章の真意と健康戦略の具体的な中身を思考しておくこと。		
授業到達目標	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					5 健康情報の伝播と健康教育 現代社会の健康情報発信と健康教育の現状 予復修課題：健康情報はどのように発信され、それに対応した健康教育の現状		
						6 学校における健康教育の現状と課題 学校健康教育、健全な人生観、世界観、健康観を涵養するために。 予復修課題：自分が過去受講した学校健康教育から、その課題と健康観を考える。		
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 地域健康管理と健康教育の現状と課題 地域健康管理活動と健康教育(若月俊一先生の実践に学ぶ) 予復修課題：地域健康管理と地域健康教育の実践事例を収集し、思考すること。			
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					8 事業場における健康教育の現状と課題 労働衛生・産業保健の歴史と職業病の予防、ストレス対処方法 予復修課題：職業病の意味とその予防対策、ストレス学説を学んでおくこと。			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					9 ヘルスリテラシーと健康教育 健康情報の理解とその情報を正しく活用するための健康教育 予復修課題：ヘルスリテラシーの意味と生活の質の向上を目指した健康教育のあり方。			
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業内容は、変更されることがあります。 卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係、成績評価の方法、再評価の実施、アクティブ・ラーニング、履修における留意事項を含め、初回授業の際に担当者から指示がありますので、確認してください。					
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング					
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		%						
4. 授業中の発表、討論		%						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト		%						
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施		する	しない					
教科書								
参考書								
					10 ライフスキル教育の意味と薬物乱用防止教育 予復修課題：ライフスキルと喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育への活用方法			
					11 仮説実験授業と授業書方式による健康教育 板倉聖宣先生の仮説実験授業から授業書方式による健康教育 予復修課題：仮説実験授業に関する書籍を熟読すること。			
					12 プライマリヘルスケアと健康教育 WHOの健康戦略であるアムステルダム宣言(プライマリヘルスケア)の意味を思考すること。 予復修課題：プライマリヘルスケアの意味を思考すること。			
					13 ヘルスプロモーションと健康教育 ヘルスプロモーションの成功の鍵は、健全なライフスタイルの創造である。 予復修課題：ヘルスプロモーションとライフスタイルの意味を思考すること。			
					14 国民健康の現状と健康教育 生活習慣病予防(癌、動脈硬化症、心疾患等)と精神保健 予復修課題：生活習慣病、心身症、神経症等について思考しておくこと。			
					15 健康教育と「健康力」の育成 健康力とは、健康の善し悪しを判断し、善いことは継続する力を意味している。 予復修課題：健康力を身につけさせるために、健康教育の果たすべき役割を思考すること。			

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		発達教育心理学特論 Developmental and Educational Psychology			単位数	授業内容**		
担当者	福田 恭介 (FUKUDA Kyosuke)			非常勤講師	1	心理学における発達心理学・教育心理学の位置づけ 森敏明(2004)『21世紀の教育心理学が目ざすもの』有斐閣について紹介する。 予復修課題： 森敏明(2004)『21世紀の教育心理学が目ざすもの』有斐閣を読んでおく。		
授業形式	講義	科目区分	専攻科目	領域区分*	2	ピアジェの認知発達理論 スキーマの同化と調節による均衡化の過程 予復修課題： 自分の研究と関連ありそうな論文・文献をピックアップする。		
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期			ピアジェの認知発達理論 3 感覚運動期・前操作期・具体的操作期・形式的操作期 予復修課題： 配布資料を読んでおく。		
授業概要	スポーツ学研究のための発達心理学と教育心理学について講義する。 子どもはどのようにして学習していき、その潜在能力をどのように引き出すかを講義する。 子どもがどのような過程をたどって発達していくかを講義する。 発達の中で苦手さをかかえる子どもたちの特徴と支援について講義する。 子どもたちのやる気を引き出すにはどうすればよいかについて講義する				4	発達障害 自閉症スペクトラム症 (ASD: Autism Spectrum Disorder)の歴史 予復修課題： 『認知障害者の心の風景』福村出版の『教会で叫びたかった少女』を読んでおく。		
	レポートにおいて図表や用語の内容を理解した上で説明できる。 授業内容について、コメントを記述することで自分の理解度を把握できる。 指定された文献の内容を要約し、コメントを記述できる。 授業内容と自らの教育経験を結びつけ、課題を導き出すことができる。				5	発達障害 自閉症スペクトラム症 (ASD)の特徴 予復修課題： 『息子と僕のアスペルガー物語』https://gendai.ismedia.jp/articles/-/33846を読んでおく。		
授業到達目標					6	発達障害 注意欠如多動症 (ADHD: Attention Deficit hyperactivity disorder) 予復修課題： 『ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち』ミネルヴァ書房を読んでおく。		
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7				発達障害 学習症 (LD: Learning Disability) 予復修課題： 『ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち』ミネルヴァ書房を読んでおく
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				8				ペアレントトレーニング 発達障害児の親支援 予復修課題： 『ペアレントトレーニング実践ガイドブック』あいり出版を読んでおく。
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				9				ペアレントトレーニング 発達障害児を担当する教師支援 予復修課題： 『ペアレントトレーニング実践ガイドブック』あいり出版を読んでおく。
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業の最後にコメントを書いてもらいます。 授業の最初にコメントへの回答をします。 次にやるべき課題を指示します。					
1. 小テスト、感想文など		15 %						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		20 %						
4. 授業中の発表、討論		15 %						
5. 授業への参加意欲		%						
6. 自主的学習(予習・復習など)		%						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	すべての授業において、質問・討論を行う。					
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	すべての授業において、コメントを記述する					
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書	授業中に紹介する。							
参考書	福田恭介(編)(2018)『ペアレントトレーニング実践ガイドブック』あいり出版							
	市川伸一(著)(2010)『学ぶ意欲の心理学』PHP新書							
					10	レスポナント条件づけとオペラント条件づけ 予復修課題： 自分の研究と関連ありそうな論文・文献をピックアップする。		
					11	子どもの動機づけ 外発的動機づけと内発的動機づけ 予復修課題： 『学ぶ意欲の心理学』PHP新書を読んでおく。		
					12	子どもの動機づけ 内容関与動機と内容分離動機 予復修課題： 『学ぶ意欲の心理学』PHP新書を読んでおく。		
					13	知的能力の評価 知能とは、知能をどうやって測る？ 知能検査の成り立ち 予復修課題： 自分の研究と関連ありそうな論文・文献をピックアップする。		
					14	学力の評価 学力とは、学力をどうやって測る？ 予復修課題： 自分の研究と関連ありそうな論文・文献をピックアップする。		
					15	これまでの「まとめ」と「ふりかえり」 予復修課題： これまでの中でもっとも興味深かった内容について、本を参考に要約し、コメントを書く。		

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		武道学特論 Advanced Study of Budo			単位数	授業内容**	
担当者	本多 壮太郎 (HONDA Sotaro)			2	1	オリエンテーション この講義の概要、武道学の独自性に関する講義、時間外学習の在り方について 予復修課題： 武道の特性について自分の考えをまとめる	
授業形式	講義	科目区分	専攻科目	領域区分*	2	武道の特性について 武道の特性についての発表、ディスカッション、まとめの講義 予復修課題： 技術、技能と「わざ」の違いについて文献を手掛かりに自分の考えをまとめる	
配当年次	修士課程2年生	開講学期	後期			「わざ」について 技術、技能と「わざ」の定義についての発表、ディスカッション、まとめの講義 予復修課題： 武道における「わざ」の構成要素について文献を手掛かりに自分の考えをまとめる	
授業概要	武道学の特性の一つは「わざ」についての捉え方にある。それは単に、技術の名称や打突、投げ、蹴りなどの運動の主要局面のみを意味するものではなく、準備局面での「合気」「攻め」「崩し」、終末局面での「きめ」「残心」なども含んだ一連の身体的・精神的技術を意味する。さらに、その背後には、武道特有の哲学、観念、思想が存在する。 授業では、「わざ」の概念及び「わざ」の構成要素等について、上記に述べたような様々な側面から取り上げた文献を手掛かりに講義を行う。				3	武道における「わざ」の構成要素 武道における「わざ」の構成要素についての発表、ディスカッション、講義 予復修課題： 発表やディスカッションで得られた課題への取り組み	
	授業到達目標	【知識・技能】各種武道の技術体系及びその背景にある歴史、思想に関する専門的な知識を身に付けている。 【思考力・判断力・表現力】各種武道に関する専門的な知識を源とし、現代的、グローバルな武道の在り方を探求していく上での課題探究能力及び課題解決能力を身に付けている。 【主体性・協働性】現代的、グローバルな武道の在り方の探究に主体的に取り組むことと、他者と協働して課題探究及び解決に取り組むことができる。				4	武道における「わざ」の構成要素 武道における「わざ」の構成要素についての発表、ディスカッション、まとめの講義 予復修課題： 「わざ」の発生論について文献を手掛かりにまとめる
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					5	「わざ」の発生論について 「わざ」の発生論についての発表、ディスカッション、講義 予復修課題： 発表やディスカッションで得られた課題への取り組み	
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身に付け、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身に付けている。					6	「わざ」の発生論について 「わざ」の発生論についての発表、ディスカッション、まとめの講義 予復修課題： 「わざ」の伝承論について文献を手掛かりにまとめる	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探究能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身に付けている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身に付けている。					7	「わざ」の伝承論について 「わざ」の伝承論についての発表、ディスカッション、講義 予復修課題： 発表やディスカッションで得られた課題への取り組み	
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身に付けている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身に付けている。					8	「わざ」の伝承論について 「わざ」の伝承論についての発表、ディスカッション、まとめの講義 予復修課題： 「わざ」の創発について文献を手掛かりにまとめる	
成績評価の方法(全体で100%)					9	「わざ」の創発について 「わざ」の創発についての発表、ディスカッション、まとめの講義 予復修課題： 運動、スポーツ、武道の中から一つ選択し、技能や「わざ」の創発方法についてまとめる	
履修における留意事項					10	技能や「わざ」の創発方法についての発表、ディスカッション、講義 予復修課題： 発表やディスカッションで得られた課題への取り組み	
1) 授業到達目標への到達努力の評価					11	「わざ」の創発について 創発方法についての発表、ディスカッション、まとめの講義、レポートについて 予復修課題： 運動、スポーツ、武道の中から一つ選択し、技能や「わざ」の創発方法についてまとめる	
1. 小テスト、感想文など					12	「わざ」の創発について 技能や「わざ」の創発方法についての発表、ディスカッション、講義 予復修課題： 発表やディスカッションで得られた課題への取り組み	
2. 中間テスト					13	「わざ」の創発について 技能や「わざ」の創発方法についての発表、ディスカッション、講義、レポートについて 予復修課題： レポート作成への取り組み	
3. 課題レポートなどの提出物					14	「わざ」の創発について 技能や「わざ」の創発方法についての発表、ディスカッション、講義、レポートについて 予復修課題： レポート作成への取り組み	
4. 授業中の発表、討論					15	まとめ 授業の振り返り、まとめ、レポート提出 予復修課題： レポート返却時に質問したいこと、疑問に思うことなどをまとめる	
5. 授業への参加意欲							
6. 自主的学習(予習・復習など)							
7.							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめテスト							
2. 論文、まとめのレポートなど							
3.							
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	金子明友, わざの伝承, 明和出版, 2002 生田久美子, 「わざ」から知る(新装版), 東京大学出版社, 2007						

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング特論 Coaching Theory			単位数	授業内容**		
担当者	八板 昭仁 (YAITA Akihito)			専任	1	ガイダンス 1) 授業の進め方 2) 評価について 3) 講義の概要説明 4) 受講における注意事項 予復修課題: 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)		
授業形式	講義	科目区分	専攻科目	領域区分*	2	コーチングの問題点 1) コーチと教師 2) コーチングと教育の関係 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期			コーチングの問題点 1) プレイヤーとの関係 2) 目標・目的と試合結果の関係 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
授業概要	コーチング学が様々な知識を必要とする学際的な分野であることを理解した上で、各運動種目の特性を踏まえて、コーチの役割とコーチングマネジメント、指導行動、運動技術や戦術に関する知識を身につけ、コーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。さらに、コーチングが単に「競技スポーツを教える」ということを意味しているだけでなく、それを中心とした多様な働きを示すことを理解するために、我が国のコーチングにおける様々な問題点に着目し、受講生相互の意見交換を含めて議論を展開する。				3	コーチの役割 1) アスリート・センタード 2) 「学ぶこと」と「教えること」 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
	わが国のコーチングの現状や問題点を理解し「コーチ」の役割を説明することができる。「コーチング」が何を意味するのかを自らの言葉で説明することができる。コーチング実践において専門競技の特性を理解し、指導行動に反映させることができる。コーチングにおける基本的な事項(チームの管理・練習計画・練習方法等)を理解し、具体的な計画や方法を考えることができる。				4	コーチの役割 1) コーチの存在意義を考える 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
授業到達目標	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				5	スポーツ種目の競技特性 1) 競技の歴史 2) ルールの変遷 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
	【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6	スポーツ種目の競技特性 1) 体力的要素 2) 技術的要素 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
	【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				7	スポーツ種目の競技特性 1) 戦術的要素 2) 心理的要素 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				8	チームマネジメント 1) コーチングフィロソフィー 2) チームのスタイル 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
	成績評価の方法(全体で100%)				9	リスクマネジメント 1) コーチの責任 2) 危険の識別 3) 安全管理の対策 4) 情報管理 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
	履修における留意事項				10	リーダーシップとコミュニケーション 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、様々な意見について論理的に考える。授業時間後の重要箇所の理解度を確認するため復習を行い、疑問点については早期の解決に努める。以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。			11	競技特性に応じたコーチングの目標設定 1) 年間計画の作成 2) ゲーム目標 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
1. 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング 授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。また、随時プレゼンテーションを行う。			12	競技特性に応じたコーチングの目標設定 1) トレーニングプラン 2) ゲームプラン 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
2. 中間テスト	%				13	コーチングに必要なコーチに求められる資質・能力 1) コーチング実践のための準備 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
3. 課題レポートなどの提出物	20 %				14	コーチングに必要なコーチに求められる資質・能力 1) プレゼンテーション 2) まとめ 予復修課題: 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
4. 授業中の発表、討論	30 %							
5. 授業への参加意欲	20 %							
6. 自主的学習(予習・復習など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価								
1. まとめのテスト	%							
2. 論文、まとめのレポートなど	30 %							
3.	%							
再評価の実施	する	しない						
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。							
参考書	久保正秋「コーチング論序説」不昧堂出版 Leggett, L.: 綿井永寿監訳「コーチの心得」不昧堂出版							

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		コーチング現場演習 Coaching Practicum			単位数	授業内容**			
担当者		森 誠護 (MORI Seigo)		川面 剛 (KAWAZURA Tsuyoshi)		専任			
授業形式		演習(私バス方式)		科目区分 専攻科目		コーチング*			
配当年次		修士課程1年生		開講学期 後期		領域区分*			
授業概要	<p>コーチングスキルを向上するためには、専門的知識・理論を学習し、それを実践することが必要である。本授業では、チーム競技のコーチング及び個人競技のコーチングについて、これまでに学習した専門的能力をコーチング現場にて実践し、各種目のスポーツコーチングに応用する能力を身に付ける。</p> <p>さらに、各種目におけるコーチングの実際を学び、年代別の指導法やスキル水準別の指導法を学習し、科学的な知見からコーチング現場に活かすコーチング法を学ぶことを目的とする。</p>						1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について、講義の概要説明、受講中の注意事項等 予復修課題：各種目のコーチング現場の現状を把握する(1時間)	
	授業到達目標	<p>1. 各種目における専門的知識・理論を実践できる。 2. 各種目のコーチング方法を理解し、コーチング方法を習得する。 3. 科学的なデータに基づいた指導法およびトレーニング法の立案ができる。</p>						2	各スポーツにおける本質的特徴 各スポーツの概念、種目特性、体系化、競争目的、社会的機能の理解 予復修課題：各種目のコーチング現場の現状を把握する(1時間)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)		<p>【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身に付け、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。</p> <p>【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。</p>						3	各スポーツにおける競技力構造 各スポーツにおける競技力及び競技力構造、技術的・戦術的理解 予復修課題：年代別における練習方法及びコーチング方法を学習する(1時間)
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項						4	トレーニングプログラムデザイン マクロ(年間)サイクル、メゾ(月間)サイクル、ミクロ(週間)サイクル 予復修課題：育成年代におけるコーチング法の学習(1時間)
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合		授業時には積極的に発言し、他の受講生の意見を聞き、物事の本質を論理的に思考する。各競技の専門性が必要となるので、受講する競技を専門的に経験していること。なお現場演習の実施先は、原則として北九州市内もしくは近隣の中学校及び高等学校とするが、その他に綿密な打合せが可能な受入れ先があれば、その都度検討する。				5	科学的データに基づいたトレーニングの実践 専門種目のトレーニング方法の分析 予復修課題：各種目のコーチング法の学習(1時間)
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング 演習先では実際に指導の現場に立ち、選手の指導(コーチング)を実施する。				6	コーチング現場での演習 演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、次回演習の準備(1時間)
再評価の実施		する		しない				7	コーチング現場での演習 演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、次回演習の準備(1時間)
教科書								8	コーチング現場での演習 演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、次回演習の準備(1時間)
参考書		特に指定しない。参考書については第1回目で説明する。						9	コーチング現場での演習 演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、まとめ(1時間)
								10	実習の振り返り、改善プランの作成 教員の指導後、演習先へ提出 予復修課題：教員との打ち合わせ、演習先との打ち合わせ(1時間)
								11	コーチング現場での演習 改善プランを踏まえた上で、演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、次回演習の準備(1時間)
								12	コーチング現場での演習 改善プランを踏まえた上で、演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、次回演習の準備(1時間)
								13	コーチング現場での演習 改善プランを踏まえた上で、演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、次回演習の準備(1時間)
								14	コーチング現場での演習 改善プランを踏まえた上で、演習先の指示に従い、実施 予復修課題：演習日誌の作成、まとめ(1時間)
								15	まとめ・演習レポートの発表及び解説 実習日誌、改善プランの提出 予復修課題：演習のレポートを作成し、提出する(1時間)

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ栄養学特論 Applied Theory of Sports Nutrition			単位数	授業内容**	
担当者		樋口 行人 (HIGUCHI Yukiito)			2	1 スポーツ栄養の現在 スポーツに詳しい栄養士と栄養に詳しいスポーツ指導者 予復修課題：自分の「スポーツ栄養」体験を文章にまとめる。	
授業形式		講義	科目区分	専攻科目	専任	2 糖質の栄養生化学 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題：糖質についてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。	
配当年次		修士課程2年生	開講学期	前期		領域区分*	3 脂質の栄養生化学 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題：脂質についてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。
授業概要		前半は栄養素の働きを生化学的に学び、またスポーツに係わる各種の栄養ガイドラインについて理解を深める。さらにこれらの知識を栄養指導に活かす方法を検討する。 栄養の専門家を目指すわけではないが、スポーツ現場で簡単な栄養指導が適切にでき、栄養士と連携する際に不都合のない知識、技術を有することを目的とする。			4 たんぱく質の栄養生化学 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題：たんぱく質についてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。	5 ビタミンの栄養生化学 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題：ビタミンについてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。	
授業到達目標		各栄養素について正しくプレゼンテーションできる。 栄養については個人差が大きいことを理解できる。 個人差が大きいことを理解したうえで、各種ガイドライン等に沿った基本から外れない栄養指導ができる。				6 ミネラルの栄養生化学 食べ物としての消化と生体内代謝 予復修課題：ミネラルについてまとめるとともに五大栄養素の関係性を確認のこと。	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				7 水・電解質の栄養生化学 水の出納について 予復修課題：脱水症状について予修のこと。講義内容を文章で書けるように復修のこと。			
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				8 スポーツ栄養のガイドライン 日本体育協会、JISS、全米スポーツ医学会 予復修課題：指示された栄養素について各ガイドラインの違いをまとめる。			
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				9 スポーツ選手の栄養・食事計画 エネルギーを中心に 予復修課題：各ガイドラインに照らし合わせて考えること。			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達力の評価		評価割合	予復修で180分の学修を目安とすること。 最新のガイドライン等、必要な資料はその都度提示するが、テキスト購入は必須とし、特に前半は自らがテキストを読み、プレゼンテーションを行う形式とする。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 少人数のため、事例検討(第13・14回)や討論(第8回)を行う。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		15 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		5 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書		加藤秀夫他編著『栄養生化学』講談社サイエンティフィック(2012)					
参考書		15 事例検討の内容とする 予復修課題：予修・期日までにレポートを熟考して提出。復修：レポートを適宜修正のこと。					

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		ストレンクス&コンディショニング演習 Practice in Strength & Conditioning			単位数	授業内容**	
担当者	長谷川 伸 (HASEGAWA Shin)			専任	1	オリエンテーション 授業の概要 予復修課題：なし	
授業形式	演習	科目区分	専攻科目	領域区分*		2	形態計測、身体組成の測定 周径囲、皮脂厚の測定、体組成の測定 予復修課題：復修：測定結果に基づく形態項目の評価
配当年次	修士課程2年生	開講学期	後期			3	筋力・パワーの測定(1) 1RMテスト、局所性筋持久力の測定(フィールドテスト) 予復修課題：復修：測定結果に基づく筋力・パワーの評価
授業概要	レジスタンストレーニングにおけるプログラムの作成、遂行、評価の一連の過程について測定、トレーニングを実際に経験しながら学ぶことを目指す。					4	筋力・パワーの測定(2) 無酸素性パワーの測定、等速性筋力の測定(ラボラトリーテスト) 予復修課題：復修：測定結果に基づく筋力・パワーの評価
	形態計測、体力測定を正確な方法で行い、その結果を評価することができる。身体各部における部位別のトレーニング種目を理解し、実施することができる。クイックリフト3種目を正しいフォームで実施することができる。体力テストの結果に基づいたトレーニングプログラムの作成ができる。					5	アジリティ・スピードのテスト 予復修課題：復修：形態・体力測定に関するレポート課題を作成すること
授業到達目標	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					6	レジスタンストレーニングの種類(1) 上肢のトレーニング種目 予復修課題：復修：当該種目のフォームを練習しておくこと
	【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7	レジスタンストレーニングの種類(2) 下肢のトレーニング種目 予復修課題：復修：当該種目のフォームを練習しておくこと
	【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					8	レジスタンストレーニングの種目(3) 体幹のトレーニング種目 予復修課題：復修：当該種目のフォームを練習しておくこと
	【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					9	レジスタンストレーニングの種目(4) クイックリフト ハイクリーン 予復修課題：復修：次週までにハイクリーンの指定された重量が拳上できるようにしておくこと
	成績評価の方法(全体で100%)					10	レジスタンストレーニングの種目(5) クイックリフト クリーン&ジャーク 予復修課題：復修：次週までにクリーン&ジャークの指定された重量が拳上できるようにしておくこと
	履修における留意事項					11	レジスタンストレーニングの種目(6) クイックリフト スナッチ 予復修課題：復修：次週までにクリーン&ジャークの指定された重量が拳上できるようにしておくこと
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	演習形式の授業であるため必ず出席すること。ケガ等で実技(ウエイトトレーニング)が長期実施できない場合は、科目登録前に必ず事前に相談に来ること。				12	プライオメトリックトレーニング 予復修課題：復修：各種プライオメトリックトレーニングについてまとめておくこと
	1. 小テスト、感想文など	20 %	当該集のテーマについては、事前に予修30分程度を行って参加すること。			13	プログラムのデザイン(1) プログラムデザインの概略 予復修課題：予修：授業内容に基づき、トレーニングプログラム案を作成する
	2. 中間テスト	%				14	プログラムの作成 予復修課題：予修：授業内容をふまえ、トレーニングプログラム案を修正する
	3. 課題レポートなどの提出物	30 %				15	作成されたプログラムの実施 予復修課題：復修：レポート課題を作成すること
	4. 授業中の発表、討論	%					
	5. 授業への参加意欲	20 %					
	6. 自主的学習(予習・復習など)	%					
	7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング						
	1. まとめのテスト	%	実践学習[第2回~第15回]				
	2. 論文、まとめのレポートなど	30 %					
	3.	%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	ストレンクストレーニング&コンディショニング(ブックハウスHD)						

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	健康・長寿特論				単位数	授業内容**	
	Advanced lecture on health science for a longevity society				2		
担当者	樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)				専任	1	健康の定義・オリエンテーション 予復修課題：自身の生活習慣(身体活動)をふりかえる
授業形式	講義	科目区分	専攻科目	領域区分*		2	健康の三原則 予復修課題：自身の生活習慣(食事)をふりかえる
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期			3	これまでの健康増進対策の沿革 予復修課題：時代背景と施策についてまとめること
授業概要	現代に生きる私たち自身の健康をどのように捉えるのかを考え、生活の質の向上を通して健康長寿の延伸へ貢献する知識を身につける。 また、地域社会における健康問題に対して、これらの知識を基盤とし、その理解を応用させることで、健康・長寿の施策に繋げ、望ましい健康を作り出すにはどうすべきかを各自が考えていく。					4	健康日本21(第二次)のねらいと戦略 予復修課題：健康日本21(第一次)の課題を明確にすること
	授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様な視点から健康について理解する知識を身に付ける。 様々なデータから地域の健康に関する状況を客観的に考察できる。 健康問題に対応する政策を立案することができる。 健康施策の実施に対する結果を客観的に評価できる。 					5
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕							
【知識・技能】	修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				◎	7	情報化社会における健康情報のマネジメント 予復修課題：与えた課題の情報収集を行い、まとめること
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8	我が国の社会特性と健康① 栄養・食生活 予復修課題：テーマの国民のライフスタイルについてまとめること
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					9	我が国の社会特性と健康② 身体活動・運動 予復修課題：テーマの国民のライフスタイルについてまとめること
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	予復修で180分の学修を目安とすること。 健康フィットネス領域の推奨科目であるが、他領域の学生にも有用な内容とする。必ずしも現場演習に直結するわけではない。					
1. 小テスト、感想文など	%						
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	15 %						
4. 授業中の発表、討論	10 %						
5. 授業への参加意欲	5 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%	少人数のため、討論(第14・15回)や計算(第6回)、情報収集(第7回)を行う。					
2. 論文、まとめのレポートなど	70 %						
3.	%						
再評価の実施	する	しない	○				
教科書							
参考書	朝山正己他著『イラスト健康管理概論第5版』東京教学社(2015)						
						15	予復修課題：検討した事例についてまとめること

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ヘルスプロモーション現場演習 Practicum on Health Promotion Industry				単位数	授業内容**	
担当者	樋口 行人 (HIGUCHI Yukito)				1	専任	1 我が国のヘルスプロモーション産業の現在 施設の分類 予復修課題：関連法規をまとめておく。
授業形式	演習	科目区分	専攻科目	領域区分*			2 ヘルスプロモーション現場演習に必要な知識と技能 大学側視点から 予復修課題：現時点で「できること」をまとめておく。現場演習に必要な書類の準備。
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期				3 ヘルスプロモーション現場演習に必要な知識と技能 現場側視点から(打ち合わせ含む) 予復修課題：現場演習で「できること」を確認のこと。現場演習に必要な書類の準備。
授業概要	民間スポーツクラブや公設体育施設などでの現場演習を通じて、運営上生じる問題点を見つけ出し、具体的な改善策を考案して、その解決に寄与することを授業目標とする。 現場演習は単なる見学とならぬよう、事前打ち合わせを綿密に行い、「できること」を準備することとする。						4 現場演習A 現場指示に従い実施 予復修課題：日誌の作成および現場指示に従うこと。
授業到達目標	現場演習先との事前打ち合わせにより、自分が実現可能な計画を立て、遂行できる。 把握した問題点に対して適切な改善策を考案できる。 考案した改善策をわかりやすく提案し、協同作業により実行できる。						5 現場演習A 現場指示に従い実施 予復修課題：日誌の作成および現場指示に従うこと。 6 現場演習A 現場指示に従い実施 予復修課題：日誌の作成および現場指示に従うこと。
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 現場演習A 現場指示に従い実施 予復修課題：日誌の作成および現場指示に従うこと。	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。						8 現場演習A 現場指示に従い実施 予復修課題：日誌の作成および現場指示に従うこと。	
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						9 課題改善プランの作成 教員チェック後、現場に提出 予復修課題：教員チェックに従い、適宜修正のこと。	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	予復修で180分の学修を目安とすること。 現場演習施設は、原則宗像ユリックスアクアドームとするが、他の施設と綿密な打ち合わせが可能であれば、その都度検討する。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		15 %					
4. 授業中の発表、討論		10 %					
5. 授業への参加意欲		5 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	現場演習の授業であるので、すべてがアクティブ・ラーニングと言えるが、第9回で課題改善プランを提示し、第10回以降で実施することが特長である。				
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							
							15 最終レポートの発表・解説 予復修課題：予修期日までにレポートを熟考して提出。復修レポートを適宜修正のこと。

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		体力科学特論 Physical fitness science			単位数	授業内容**	
担当者		船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)			2	1 オリエンテーション 授業の進め方について、健康、体力、トレーニング分野における今日的課題 予復修課題：体力科学分野の今日的な課題を選択しレポートとしてまとめる	
授業形式		講義	科目区分	専攻科目	専任	2 課題発表 健康や体力およびトレーニング分野における今日的課題を発表 予復修課題：発表資料の作成、レート作成	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	後期		領域区分*	3 課題発表 健康や体力およびトレーニング分野における今日的課題を発表 予復修課題：発表資料の作成、レート作成
授業概要		身体活動や体育・スポーツに関連する体力要素は多岐にわたる。本講義ではまず、種々の体力要素と健康やスポーツパフォーマンスとの関係について講義する。また、体力の向上のための理論・手法、エビデンスに基づいた運動処方プログラムの立案の仕方、その評価や効果判定ができる実践能力を身につけるための講義を行う。			フィットネス	4 体力の発達、老化(1) 体力の発達と老化 予復修課題：体力の発達と老化について説明できるように復修する	
授業到達目標		体力に関する概念を説明することができる。 体力向上のための理論・手法を提示できる。 対象に応じた運動プログラムを処方することができる。 体力測定に必要な機器等を操作できる。 体力の評価、トレーニング効果の評価をすることができる。				5 体力の発達、老化(2) 発育発達とトレーニング 予復修課題：発育発達とトレーニングについて説明できるように復修する	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					6 体力の発達、老化(3) 中高年における体力の意義 予復修課題：中高年における体力の意義を説明できるように復修する		
【知識・技能】		修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。			7 筋力の評価(1) 等速性筋力の測定 予復修課題：測定データの整理		
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。			8 筋力の評価(2) 等速性筋力の測定 予復修課題：測定データの整理		
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。			9 筋量の測定(1) 下肢(大腿前部、大腿後部、下腿後部)筋厚の測定 予復修課題：測定データの整理		
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			10 筋量の測定(2) 下肢(大腿前部、大腿後部、下腿後部)筋厚の測定 予復修課題：測定データの整理		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	大学(学部)においてスポーツ生理学、体力トレーニングの基礎知識を身につけておくこと。			11 バネ的指数の測定(1) SJ、CMJ、RJ時のパワー、バネ的指数の測定 予復修課題：測定データの整理	
1. 小テスト、感想文など		%	各授業においては、その回の復修、次の回の予修、課題作成のために4時間程度の自学が必要である。			12 バネ的指数の測定(2) SJ、CMJ、RJ時のパワー、バネ的指数の測定 予復修課題：測定データの整理	
2. 中間テスト		%				13 筋力、筋量、バネ的指数の統計解析(1) プレゼンテーション準備 予復修課題：統計処理、プレゼンテーション準備	
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				14 筋力、筋量、バネ的指数の統計解析(2) プレゼンテーション準備 予復修課題：統計処理、プレゼンテーション準備	
4. 授業中の発表、討論		%				15 プレゼンテーション	
5. 授業への参加意欲		%				筋力、筋厚、バネ的能力が体力に及ぼす影響についてプレゼンテーション 予復修課題：プレゼンテーション準備	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	課題作成・発表				
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %	【第1回目～3回目、7回目～15回目】				
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		健康・体力支援演習 Seminar on health and fitness promotion			単位数	授業内容**	
担当者		得居 雅人 (TOKUI Masato)		ほか	1	1	オリエンテーション【得居・大下】 予復修課題：『健康・長寿特論』、『ヘルスプロモーション現場実習』の復習（予復修時間：1時間程度）
授業形式		演習（私ハス方式）	科目区分	専攻科目		2	健康支援の現状【大下】 予復修課題：健康支援とは何か（予復修時間：1時間程度）
配当年次		修士課程2年生	開講学期	後期	領域区分*		2
授業概要		現代に生きる私たち自身の人間特性を体力科学的な側面から測定・評価し、それらを向上させる方法について理解を深める（1～8週目）。そして、これらの知識を基盤とし、その理解を応用させることで、地域社会や日常生活における健康支援の方策について検討する（9～13週目）。さらに、今後の望ましい健康支援のあり方について、各自が考えること（14・15週目）を本演習のテーマとする。				3	体力・運動機能の測定と評価【大下】 予復修課題：筋機能の測定と評価について（予復修時間：1時間程度）
授業到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 生活・健康に関わる身体機能を測定・評価する方法を身に付ける。 生活・健康に関わる身体機能を向上させるプログラムを作成することができる。 地域社会における健康増進に関する施策を立案することができる。 日常生活における健康増進に関する施策を立案することができる。 				4	体力・運動機能の測定と評価【得居】 予復修課題：呼吸・循環機能の測定と評価について（予復修時間：1時間程度）
		修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係【特に関係する 関係する】				5	体力・運動機能の測定と評価【得居】 予復修課題：脳・神経機能の測定と評価について（予復修時間：1時間程度）
【知識・技能】		修士（スポーツ学）として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6	体力・運動機能の測定と評価【得居】 予復修課題：生体動作の測定と評価について（予復修時間：1時間程度）
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				7	運動プログラムの作成【得居】 予復修課題：有酸素性運動について（予復修時間：1時間程度）
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				8	運動プログラムの作成【大下】 予復修課題：無酸素性運動、レジスタンス運動について（予復修時間：1時間程度）
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				9	健康増進施設における健康支援【大下】 予復修課題：健康増進施設について（予復修時間：1時間程度）
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	健康に関わる分野のため、受講者自身が健康に関して高い意識を有し、実践していること（運動習慣、禁煙など）。			10	地域社会における健康支援【得居】 予復修課題：各自治体の健康施策について（予復修時間：1時間程度）
1. 小テスト、感想文など		%	『健康・長寿特論』、『ヘルスプロモーション現場実習』の単位を修得し、内容を適切に理解していること。			11	社会環境の変化と健康支援【大下】 予復修課題：生活環境の変化と健康について（予復修時間：1時間程度）
2. 中間テスト		%	まとめのレポートは総合討論に基づいた健康・体力支援への提言とする。			12	健康支援のための方策【大下】 予復修課題：地域社会における健康支援の方策について（予復修時間：1時間程度）
3. 課題レポートなどの提出物		%	アクティブ・ラーニング			13	健康支援のための方策【大下】 予復修課題：日常生活における健康支援の方策について（予復修時間：1時間程度）
4. 授業中の発表、討論		35 %	実験条件の立案と実施。			14	総合討論【得居】 予復修課題：今後の望ましい健康支援のあり方について（予復修時間：1時間程度）
5. 授業への参加意欲		30 %	実験結果に対する討論。			15	予復修課題：今後の望ましい健康支援のあり方について（予復修時間：1時間程度）
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %	上記2項目を通じた健康・体力支援への提言を総合討論にて行う。				
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		25 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書		佐藤祐造（編著），『運動療法と運動処方』，文光堂，2005． 日本メディカルフィットネス研究会（編），『メディカルフィットネスQ&A』，社会保険研究所，2014．					

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		アスレティックトレーニング特論 Advanced Athletic Training Study and Research Method			単位数	授業内容**	
担当者	小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)			専任	1	オリエンテーション 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
授業形式	講義	科目区分	専攻科目	領域区分*	2	2 傷害調査の研究手法 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期			3 傷害危険因子の研究手法 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
授業概要	・アスレティックトレーニング領域の中から傷害予防、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定評価に係る研究方法を過去の研究論文から学ぶ。 ・研究方法や知見をアスレティックトレーニング現場へ活用する方法について討議する。					4 傷害予防の研究手法 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
	・傷害予防、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、測定評価に係る研究方法を説明できる。					5 測定評価の研究手法 アライメント測定 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
授業到達目標						6 測定評価の研究手法 関節可動域測定 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔特に関係する 関係する〕						7 測定評価の研究手法 筋力測定 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8 測定評価の研究手法 整形外科的検査 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。						9 測定評価の研究手法 その他の身体測定 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						10 測定評価の研究手法 コンディショニングの研究手法 評価方法 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。	
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	アスレティックトレーニングは多角的に構成されている為、その概要は復修しておくこと。 予復修課題の取組時間：60分以上				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		10 %					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		10 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	討論やレポート作成を行う。				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書	競技者の外傷予防, 医歯薬出版						
参考書							
						15	発表と討議、まとめ 予復修課題：予復修2時間を目安に講義資料を読み、不明な点は調べる。

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックトレーニング現場演習 Athletic Training Practicum				単位数	授業内容**	
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)		小林 直行 (KOBAYASHI Naoyuki)		1	1 現場演習1 一次救命処置(観察、気道確保、人工呼吸、循環確認等) 担当(篠原) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
授業形式	演習(私バス方式)	科目区分	専攻科目	領域区分*		2 現場演習2 頭頸部外傷評価と搬送(頭頸部外傷、現場での処置、注意する損傷と対応) 担当(篠原) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期			3 総合現場演習討議 事前指導(総合現場演習に必要な事項) 担当(篠原、小林、辰見) 予復修課題: 教員指導の下、演習先での活動計画を立てる。予復修の目安時間:4時間	
授業概要	学内・学外スポーツ施設およびスポーツチームにてアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を演習により実践的に学ぶ。具体的には、一次救命処置、頭頸部外傷評価、緊急対応計画作成などスポーツ活動中に発生しうる生命に関わる事故・怪我への対応を始め、様々なスポーツ傷害に対する評価法や救急処置についての理解を深める。また、アスレティックトレーナーが使用する物品の管理やアスレティックトレーニングルームの運営方法についても学ぶ。					4 現場演習3 緊急対応計画1(スポーツ活動中に起こりうる生命に関わる事故の実態) 担当(篠原) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
	授業到達目標 ・スポーツ活動中に発生しうる生命に関わる事故・怪我に対する緊急対応が実施できる。 ・スポーツ現場における緊急対応計画の作成と組織への導入ができる。 ・スポーツ活動中に発生しうる様々な傷害の評価と救急処置が実施できる。 ・フィールド上で傷害評価を実施し、選手を適切な方法で搬送することができる。 ・アスレティックトレーニングルームの管理運営ができる。					5 現場演習4 緊急対応計画2(緊急対応計画の作成法及び組織への導入について) 担当(篠原) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)						6 現場演習5 下肢の傷害評価 担当(小林) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7 現場演習6 上肢の傷害評価 担当(小林) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。						8 現場演習7 体幹部の傷害評価 担当(小林) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						9 総合現場演習討議 中間報告(課題改善プランの作成) 担当(篠原、小林、辰見) 予復修課題: 活動報告書をまとめる。課題改善プランを作成する。予復修の目安時間:4時間	
成績評価の方法(全体で100%)						10 現場演習8 客観的評価能力試験(怪我を想定した傷害評価の知識と技術の確認) 担当(小林) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	履修における留意事項			11 現場演習9 フィールド上での傷害評価と管理1(フィールド傷害評価の概要と手順) 担当(辰見) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
1. 小テスト、感想文など		%	・15回の演習授業以外に総合現場演習を行う。 ・総合現場演習は次の中から学内および学外の施設で80時間程度行う。1.学内スポーツ施設、2.学内スポーツチーム(学外大会同行を含む)、3.地域で開催されるスポーツ大会、4.学外スポーツ施設および医療系施設(原則GROUND RULE.とする)、5.学外スポーツチーム *詳細は教員との面談により決定			12 現場演習10 フィールド上での傷害評価と管理2(フィールド傷害評価の実際と搬送法) 担当(辰見) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
2. 中間テスト		%				13 現場演習11 アスレティックトレーニングルームの管理運営1(評価結果の記録と管理) 担当(辰見) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
3. 課題レポートなどの提出物		%				14 現場演習12 アスレティックトレーニングルームの管理運営2(医療関係法規と運営計画) 担当(辰見) 予復修課題: 講義資料を読み、不明な点は調べる。予復修の目安時間:4時間	
4. 授業中の発表、討論		25 %				アクティブ・ラーニング 現場演習1~12ではシュミレーションならびにケーススタディを行う。 また、総合現場演習討議においては、事前に報告書およびレポートを作成する。	
5. 授業への参加意欲		25 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価					15 総合現場演習討議 最終報告 担当(篠原、小林、辰見) 予復修課題: 最終報告書をまとめる。予復修の目安時間:4時間		
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書							

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		スポーツ医学特論 Pathology of Sports Injury and Illness				単位数	授業内容**	
担当者		篠原 純司 (SHINOHARA Junji)				2	1	オリエンテーション スポーツ医学概論 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
授業形式		講義	科目区分	専攻科目	領域区分*	アスレチック	2	頭頸部のスポーツ傷害 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
配当年次		修士課程1年生	開講学期	前期			3	頭頸部のスポーツ傷害 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
授業概要	本科目では、スポーツ現場において見られる様々な外傷、障害、内科的疾患の概要を理解し、それらに対する評価、リハビリ、リハビリテーション、再発予防などについての見識を深める。また、スポーツに関連する怪我や病気の理解する上で必要不可欠な解剖学的知識についても学ぶと共に、症例についての文献抄読・討論を行う。						4	頭頸部のスポーツ傷害に関する文献抄読・討論 予復修課題：文献の検索及び読解
							5	腰背部のスポーツ傷害 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
授業到達目標	スポーツ外傷、障害、及び内科的疾患の概要を理解すると共に、それらに対する評価、リハビリ、リハビリテーション、再発予防について説明できる。 解剖学的知識を基にスポーツに関連する怪我や病気について説明できる。 スポーツに関連する怪我や病気の症例についての文献抄読・討論を行うことができる。						6	腰背部のスポーツ傷害に関する文献抄読・討論 予復修課題：文献の検索及び読解
							7	上肢のスポーツ傷害 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)								
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。								
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。								
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。								
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本科目は、パワーポイント等の資料を使用し進行する。UNIVERSAL PASSPORTに記載された情報(講義資料、課題等)を各自確認すること。 各週1時間程度の予復修を心がけてください。					
1. 小テスト、感想文など		%						
2. 中間テスト		%						
3. 課題レポートなどの提出物		20 %						
4. 授業中の発表、討論		30 %						
5. 授業への参加意欲		30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %						
7.		%						
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト		%	本科目は、症例についての文献抄読・討論やレポート課題を通してアクティブラーニングを実施する[第4、6、9、12、15回目]。					
2. 論文、まとめのレポートなど		%						
3.		%						
再評価の実施	する	しない						
教科書								
参考書	運動器リハビリテーションの機能評価 (著者: David J. Magee、発行所: エルゼビア・ジャパン)							
							15	予復修課題：文献の検索及び読解

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 ** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	機能解剖学特論 Advanced Functional Anatomy				単位数	授業内容**	
担当者	篠原 純司 (SHINOHARA Junji)				2	1	オリエンテーション 機能解剖学概論 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
授業形式	講義	科目区分	専攻科目	領域区分*		2	骨・関節の構造と機能 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
配当年次	修士課程2年生	開講学期	前期			3	筋・靭帯・腱の構造と機能 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
授業概要	本講義では、人体の骨、筋肉、関節、靭帯、神経の構造を機能と関連付けて学ぶと共に、スポーツ障害・外傷に伴う身体構造の変化や機能障害についても理解を深める。また、機能解剖学に関連した論文の読解などを通してスポーツ現場にて求められる科学的根拠に基づくアスレティックトレーニングの基本的な考え方を理解する。					4	骨格筋の神経支配 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
授業到達目標	人体の骨、筋肉、関節、靭帯、神経の構造を機能と関連付けて理解し説明することができる。 スポーツ障害・外傷に伴う身体構造の変化や機能障害について理解し説明することができる。 科学的根拠に基づくアスレティックトレーニングの基本的な考え方を説明することができる。					5	肩関節の構造と運動 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						7	予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。						8	科学的根拠に基づくアスレティックトレーニング・ストレングス&コンディショニングの考え方 予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						9	予復修課題：講義資料と授業内容を整理し理解する
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	本科目は、パワーポイント等の資料を使用し進行する。UNIVERSAL PASSPORTに記載された情報(講義資料、課題等)を各自確認すること。				
1. 小テスト、感想文など		%	各週1時間程度の予復修を心がけてください。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		20 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		20 %	本科目は、レポート課題を通してアクティブラーニングを実施する。				
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %					
3.		%					
再評価の実施	する	しない					
教科書							
参考書	筋骨格系のキネシオロジー(著者: Donald A. Neumann、出版社: 医歯薬出版)				15		
	整形外科・スポーツ傷害診察ハンドブック(著者: Chad Starkey、出版社: ナップ)				予復修課題：授業で学んだことの総復修		

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)	アスレティックリハビリテーション演習 Advanced Therapeutic Exercise for Musculoskeletal Injuries				単位数	授業内容**	
担当者	辰見 康剛 (TATSUMI Yasutaka)				1	専任	1 授業ガイダンス (授業の流れ、成績評価の方法など) アスレティックリハビリテーションの考え方 予復修課題: 教科書p2~17を予修しておく
授業形式	演習	科目区分	専攻科目	領域区分*	2	アスレティック	2 頸部・腰部に対するアスレティックリハビリテーション 予復修課題: 教科書p103~132を参考に予め該当するプログラムを作成しておく
配当年次	修士課程2年生	開講学期	前期				3 肩関節に対するアスレティックリハビリテーション (前方脱臼など) 予復修課題: 教科書p133~143を参考に予めプログラムを作成しておく
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 各種外傷や障害、また競技特性を踏まえたうえでアスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、指導する力を養う。 実際の指導場面を想定し、様々な状況におけるシミュレーションを実施する。 その他、各テーマに沿った議論も積極的に実施する。 						4 肩関節に対するアスレティックリハビリテーション (投球障害など) 予復修課題: 教科書p144~153, p322~325を参考に予めプログラムを作成しておく
							5 肘・手関節に対するアスレティックリハビリテーション 予復修課題: 教科書p154~178を参考に予めプログラムを作成しておく
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 正しい知識と技術をもとにアスレティックリハビリテーションを指導をすることができる。 適切なデモンストレーションとコミュニケーションを用いて指導をすることができる。 実践に即した応用力や問題解決能力を発揮出来る 						6 足関節に対するアスレティックリハビリテーション 予復修課題: 教科書p179~187を参考に予めプログラムを作成しておく
							7 膝関節に対するアスレティックリハビリテーション (靭帯および半月板損傷) 予復修課題: 教科書p188~211を参考に予めプログラムを作成しておく
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕							
【知識・技能】	修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				◎		8 大腿屈筋群に対するアスレティックリハビリテーション 予復修課題: 教科書p212~219, p276~285を参考に予めプログラムを作成しておく
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○		9 下肢の慢性障害に対するアスレティックリハビリテーション 予復修課題: 教科書p220~255を参考に予め該当するプログラムを作成しておく
【主体性・協働性】	専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						10 アスレティックリハビリテーションにおける競技種目特性について 予復修課題: 自身の専門種目における競技特性についてまとめ、他の競技についても討論できるよう予修を進めておく
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項					
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 本演習を履修する者はトレーナーとしての実務経験を有することが望ましい。 本演習では予習、復習を行っていることを前提として授業を進める。 本演習に出席する際は動ける服装に替えて室内シューズを持参すること。(各授業における予復修時間の目安: 4時間) 					
1. 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング シミュレーション学習として、事前にリハビリプログラムを作成しておく。また、それらをもとに各授業にてプレゼンならびに実践を行う。					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	%						
4. 授業中の発表、討論	30 %						
5. 授業への参加意欲	30 %						
6. 自主的学習(予習・復習など)	%						
7.	%						
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト	20 %						
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %						
3.	%						
再評価の実施	する	しない	○				
教科書	日本スポーツ協会「公認アスレティックトレーナーテキスト⑦アスレティックリハビリテーション」文光堂						
参考書	日本スポーツ協会「公認アスレティックトレーナーテキスト①~⑨」文光堂						
	山本利春「競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニング」文光堂						
							15 全授業の総括 まとめのテストならびにレポートを実施する 予復修課題: 14回目までの内容を復修しておく

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 *授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research method			単位数	授業内容**	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshinari)			4	1 研究計画作成(1) 研究テーマに関する背景や、課題をリサーチ、発表する 予復修課題：リサーチのまとめ、発表資料の作成	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 研究計画作成(2) 研究テーマに関する背景や、課題をリサーチ、発表する 予復修課題：リサーチのまとめ、発表資料の作成	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	通年(前期)		領域区分*	
授業概要	「体力学」、「発育と運動」についてどのような先行研究がどのような方法ですめられてきたかについて講義する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する方法を享受する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの使用法を解説する。				3	論文抄読(1) 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題：先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備	
	授業到達目標	研究テーマに関する論文を理解することができる。 研究テーマに関する論文の中からオリジナリティーや課題点を抽出することができる。 前期のうちに研究テーマ、方法を決定すること。				4	論文抄読(2) 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題：先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備
5		論文抄読(3) 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題：先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備		6	論文抄読(4) 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題：先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備		
	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 研究計画発表(1) 論文抄読を経て、研究テーマの調整を行う 予復修課題：研究テーマ決定意義、オリジナリティーについて発表資料を作成	
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					8 研究計画発表(2) 論文抄読を経て、研究テーマの調整を行う 予復修課題：研究テーマに関する方法、次期について発表資料を作成		
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					9 予備実験・調査の計画(1) 予備実験のための方法の精査、被験者の決定 予復修課題：予備実験の準備		
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					10 予備実験・調査の計画(2) 予備実験のための方法の精査、被験者の決定 予復修課題：予備実験の準備		
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業においては、その回の復修、次の回の予修、課題作成のために4時間程度の自学が必要である。			11 予備実験・調査(1) 予備実験・調査を実施 予復修課題：予備実験・調査で得られたデータの整理	
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 課題作成・発表 【第1回目～15回目】			12 予備実験・調査(2) 予備実験・調査を実施 予復修課題：予備実験・調査で得られたデータの整理	
2. 中間テスト		%				13 予備実験・調査のデータ分析(1) 予備実験・調査のデータ分析による、本実験の実現性について検証 予復修課題：予備実験・調査で得られたデータの分析	
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				14 予備実験・調査のデータ分析(2) 予備実験・調査のデータ分析による、本実験の実現性について検証 予復修課題：予備実験・調査で得られたデータの分析	
4. 授業中の発表、討論		%				再評価の実施	
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価			15 研究テーマ、方法の発表 現段階における研究テーマ、方法、対象者等を決定する 予復修課題：研究計画の作成、発表資料の作成				
1. まとめのテスト		%	する				
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %					
3.		%					
再評価の実施		しない					
教科書							
参考書							

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research method			単位数	授業内容**			
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)			4	1 オリエンテーション 修了研究の進め方 予復修課題： 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)			
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 文献レビュー 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
配当年次		修士課程1年生	開講学期	通年(前期)		領域区分*	全領域		
授業概要	「スポーツ方法学」、「コーチング学」について、これまでどのような研究が行われてきたかを学習し、実戦の場で生かされ成果がもたらされることが重要であることを理解する。各種スポーツ種目の技術分析、ゲーム分析、スポーツ選手の体力測定や意識調査などに関するスポーツの現象についてデータ収集からデータ解析方法までの研究をデザインする。				専任	3 文献レビュー 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
	コーチングに関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。					4 文献レビュー 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
授業到達目標	修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)				専任	5 文献レビュー 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				6 文献レビュー 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)					
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。				専任		7 文献レビュー 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				専任		8 研究計画の作成 方法論の検討 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		9 研究計画の作成 方法論の検討 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、様々な意見について論理的に考える。 授業時間後の重要箇所の理解度を確認するため復習を行い、疑問点については早期の解決に努める。 以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。				10 予備実験・予備調査 方法の精査 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
1. 小テスト、感想文など		%					11 研究計画の作成 方法論の検討 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
2. 中間テスト		%					12 予備実験・予備調査のデータ分析 データ解析 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
3. 課題レポートなどの提出物		%					13 予備実験・予備調査のデータ分析 データ解析 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
4. 授業中の発表、討論		60 %					14 予備実験・予備調査のデータによる発表報告 予備実験のデータ解析結果をまとめ発表する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
5. 授業への参加意欲		%					15 まとめ データの解析結果から修士論文の方向性を定める 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		
6. 自主的学習(予習・復習など)		30 %							
7.		%							
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング		授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。 また、随時プレゼンテーションを行う。					
1. まとめのテスト		%							
2. 論文、まとめのレポートなど		10 %							
3.		%							
再評価の実施	する	しない							
教科書	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。								
参考書									

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research method			単位数	授業内容**	
担当者		高田 俊也 (TAKADA Toshinari)			4	1 研究テーマ、方法の確認 現段階における研究テーマ、方法、対象者等を確認する 予復修課題：研究計画の作成、発表資料の作成	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 研究遂行のための準備、調整(1) 対象者との日程調整等 予復修課題：実験・測定のスケジュールの調整	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	通年(後期)		領域区分*	
授業概要		自身のテーマについて先行研究がどのような方法ですめられてきたかについて問題提起する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解するため、先行研究を提示する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数理処理のソフトウェアの運用を享受する。また、学会発表を通して伝え方のスキルを身につけ、データ整理、分析能力を養う。			3 研究遂行のための準備、調整(2) 対象者との日程調整等 予復修課題：実験・測定のスケジュールの調整		
授業到達目標		研究テーマに関する論文を理解することができる。 研究テーマに関する論文の中からオリジナリティーや課題点を抽出することができる。 適切な方法で測定、実験ができるようになる。 採取したデータを適切に管理、処理することができる。 学会発表を行うことができる。			4 研究遂行のための準備、調整(3) 対象者との日程調整等 予復修課題：実験・測定のスケジュールの調整		
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					5 本実験・測定 修士論文作成のための本実験・測定を行う(1) 予復修課題：測定データの整理		
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					6 本実験・測定 修士論文作成のための本実験・測定を行う(2) 予復修課題：測定データの整理		
【主体性・協働性】専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					7 本実験・測定 修士論文作成のための本実験・測定を行う(3) 予復修課題：測定データの整理		
成績評価の方法(全体で100%)					8 本実験・測定 修士論文作成のための本実験・測定を行う(4) 予復修課題：測定データの整理		
履修における留意事項					9 測定データの整理(1) 統計処理用ファイルの作成 予復修課題：エクセルにてデータを整理し、総計処理用ファイルを作成する		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業においては、その回の復修、次の回の予修、課題作成のために4時間程度の自学が必要である。			10 測定データの整理(2) 統計処理用ファイルの作成 予復修課題：エクセルにてデータを整理し、総計処理用ファイルを作成する	
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 課題作成・発表 【第1回目～15回目】			11 測定データの統計処理(1) 分散分析の実施 予復修課題：分析の視点すべてに分散分析を実施	
2. 中間テスト		%				12 測定データの統計処理(2) データの見方 予復修課題：統計処理後のデータの見方について	
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				13 学会発表準備(1) 発表構成の論議 予復修課題：発表構成の図表化	
4. 授業中の発表、討論		%				14 学会発表準備(2) 発表資料の作成 予復修課題：発表原稿の作成	
5. 授業への参加意欲		%				15 学会発表 学会にて現時点までの研究の成果を発表する 予復修課題：発表原稿のリハーサル	
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %					
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research Method			単位数	授業内容**	
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)			4	1 オリエンテーション 修士論文の作成計画について 予復修課題： 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 研究計画の発表 研究テーマに関する文献調査から行った前期の発表についての検討結果を発表する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)	
配当年次		修士課程1年生	開講学期	通年(後期)		領域区分*	全領域
授業概要	「スポーツ方法学」、「コーチング学」について、これまでどのような研究が行われてきたかを学習し、実戦の場で生かされ成果がもたらされることが重要であることを理解する。各種スポーツ種目の技術分析、ゲーム分析、スポーツ選手の体力測定や意識調査などに関するスポーツの現象についてデータ収集からデータ解析方法までの研究をデザインする。				3	研究手法の再検討 前期の発表についての検討結果について討議する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)	
						4	研究手法の再検討 前期の発表についての検討結果について討議する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
授業到達目標	コーチングに関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。 学会で発表することができる。				5		研究手法の再検討 データ収集方法およびデータ解析について決定する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
						6	データ収集・報告 データ収集状況・解析方法について報告する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7		データ収集・報告 データ収集状況・解析方法について報告する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8	データ収集・報告 データ収集状況・解析方法について報告する 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					9		研究経過の発表 データ収集状況・解析結果について進捗状況をプレゼンテーションする 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						10	学会発表準備 背景・方法・結果をまとめ、学会発表申し込みの準備を進める。 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、様々な意見について論理的に考える。 授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復習を行い、疑問点については早期の解決に努める。 以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。				
1. 小テスト、感想文など		%	アクティブ・ラーニング 授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。 また、随時プレゼンテーションを行う。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト		%					
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %					
3. 学会で発表する		20 %					
再評価の実施		する	しない				
教科書 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。							
参考書							
					15	まとめ 学会発表を行う 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)	

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research method			単位数	授業内容**	
担当者		船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)			4	1 オリエンテーション 修士論文の作成計画について 予復修課題： 計画の作成	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 研究の計画発表 希望する研究テーマに関する背景や、課題を発表し、指導教員の指摘を受ける 予復修課題： リサーチのまとめ、研究計画の調整	
配当年次		修士課程2年生	開講学期	通年(前期)		3 研究の方法の見直し 遂行方法の再検討を軌道修正する 修士論文の章立てを構成する 予復修課題： 先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備	
授業概要		「体力学」、「発育と運動」についてどのような先行研究がどのような方法ですめられてきたかについて講義する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する方法を享受する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの使用法を解説する。			4 研究方法の見直しを行い、研究に着手する 予復修課題： 先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備	4 研究の方法の決定、着手	
授業到達目標		研究テーマに関する論文を理解することができる。 研究テーマに関する論文の中からオリジナリティーや課題点を抽出することができる。 前期のうちに研究テーマ、方法を決定すること。 適切な方法で測定、実験ができるようになる。 採取したデータを適切に管理、処理することができる。 学会発表を行うことができる。				5 論文抄読 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7 現段階までの研究の進捗状況のプレゼン 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	6 論文抄読 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 先行研究に関する論文の要約とプレゼンテーション準備	
【知識・技能】		修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。				8 論文抄読 論文抄読を経て、研究の調整を行う 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	
【思考力・判断力・表現力】		専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。			9 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	9 論文抄読 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	
【主体性・協働性】		専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。				10 論文抄読 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			11 論文抄読 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	10 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業においては、その回の復修、次の回の予修、課題作成のために4時間程度の自学が必要である。			11 研究テーマに関する論文の要約と理解 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			12 研究途中経過発表 現段階までの研究の進捗状況のプレゼン 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	12 研究途中経過発表 現段階までの研究の進捗状況のプレゼン 予復修課題： 研究の途中経過の要約とプレゼンテーション準備	
1. まとめのテスト		%	課題作成・発表 【第1回目～15回目】			13 学会発表のための準備 採取したデータを基に学会発表を行うためのデータ整理、処理を行う 予復修課題： 学会発表に向けて資料準備、プレゼンテーション準備	
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %				14 学会発表のための準備 採取したデータを基に学会発表を行うためのデータ整理、処理を行う 予復修課題： 学会発表に向けて資料準備、プレゼンテーション準備	
3.		%				15 学会発表の予行演習 学会発表のためのプレゼンテーションの予行演習を行う 予復修課題： 予行演習での課題を学会発表に反映させるよう準備を進める	
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research method			単位数	授業内容**	
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)			4	1 データ分析に関するディスカッション 予復修課題： 特になし(評価や受講の注意事項についてよく理解する)	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 データ分析に関するディスカッション 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)	
配当年次		修士課程2年生	開講学期	通年(前期)		領域区分*	全領域
授業概要	「スポーツ方法学」、「コーチング学」について、これまでどのような研究が行われてきたかの学習によって得られた実戦の場で生かすことのできるテーマについて、各種スポーツ種目の技術分析、ゲーム分析、スポーツ選手の体力測定や意識調査などに関するスポーツの現象について自らの研究デザインに則って修士論文を書き上げる。				3	データ分析に関するディスカッション 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)	
						4	データ分析に関するディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
授業到達目標	コーチングに関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。 学会で発表することができる。				5		ディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
						6	ディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					7		ディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。						8	ディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					9		ディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。						10	ディスカッション・修士論文作成 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、様々な意見について論理的に考える。 授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復習を行い、疑問点については早期の解決に努める。 以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。			11	
1. 小テスト、感想文など		%				11	
2. 中間テスト		%				12	
3. 課題レポートなどの提出物		%				13	
4. 授業中の発表、討論		30 %				14	
5. 授業への参加意欲		%				15	
6. 自主的学習(予習・復習など)		20 %					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング			13		
1. まとめのテスト		%	授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。 また、随時プレゼンテーションを行う。			14	
2. 論文、まとめのレポートなど		30 %				15	
3. 学会で発表する		20 %					
再評価の実施		する	しない				
教科書		特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
参考書							
		15 予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)					

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research method			単位数	授業内容**	
担当者		船津 京太郎 (FUNATSU Kyotaro)			4	1 オリエンテーション 修士論文の作成計画について 予復修課題： 計画の作成	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2 修士論文の構成を構築する 修士論文の章立てを最終決定する 予復修課題： 論文構成について検討する	
配当年次		修士課程2年生	開講学期	通年(後期)		領域区分*	
授業概要	「体力学」、「発育と運動」についてどのような先行研究がどのような方法ですめられてきたかについて講義する。さらに、自らの研究テーマについての研究動向を理解し、先行研究を精査する方法を享受する。また、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの使用法を解説する。				3 修士論文の構成を構築する 修士論文の章立てを最終決定する 予復修課題： 論文構成について検討する	4 論文抄読 関連する文献を抄読し、結果に対する裏付けと課題を抽出する。 予復修課題： できるだけ多くの論文を検索すると同時に、自身の研究論文執筆を進める	
	授業到達目標	研究テーマに関する論文を理解することができる。 研究テーマに関する論文の中からオリジナリティーや課題点を抽出することができる。 前期のうちに研究テーマ、方法を決定すること。 適切な方法で測定、実験ができるようになる。 採取したデータを適切に管理、処理することができる。 学会発表を行うことができる。				5 論文抄読 関連する文献を抄読し、結果に対する裏付けと課題を抽出する。 予復修課題： できるだけ多くの論文を検索すると同時に、自身の研究論文執筆を進める	6 論文抄読 関連する文献を抄読し、結果に対する裏付けと課題を抽出する。 予復修課題： できるだけ多くの論文を検索すると同時に、自身の研究論文執筆を進める
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)							
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7 論文抄読 関連する文献を抄読し、結果に対する裏付けと課題を抽出する。 予復修課題： できるだけ多くの論文を検索すると同時に、自身の研究論文執筆を進める	8 論文構成の見直し 論文の作成手順、構成の見直しを行う。 予復修課題： こままでの論文執筆の段階で構成の見直しを行う	
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。						9 論文の最終校正 修士論文を完成させる。 予復修課題： 審査に提出できるように校正を見直し、完成に近づける	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					10 修士論文発表会の準備 修士論文発表会に必要な資料の作成に着手する 予復修課題： 口頭発表の為の資料を作成する		
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	各授業においては、その回の復修、次の回の予修、課題作成のために4時間程度の自学が必要である。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		30 %					
4. 授業中の発表、討論		%					
5. 授業への参加意欲		%					
6. 自主的学習(予習・復習など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	課題作成・発表				
2. 論文、まとめのレポートなど		70 %	【第1回目～15回目】				
3.		%					
再評価の実施		する	しない				
教科書							
参考書							
					15 最終試験に合格するようこれまでの成果について発表する 予復修課題： 指摘を受けた点について論文の最終調整を行う		

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 Research Method			単位数	授業内容**	
担当者		八板 昭仁 (YAITA Akihito)			4	1	
授業形式		講義	科目区分	修了研究科目	専任	2	
配当年次		修士課程2年生	開講学期	通年(後期)		3	
授業概要		「スポーツ方法学」, 「コーチング学」について、これまでどのような研究が行われてきたかの学習によって得られた実戦の場で生かすことのできるテーマについて、各種スポーツ種目の技術分析, ゲーム分析, スポーツ選手の体力測定や意識調査などに関するスポーツの現象について自らの研究デザインに則って修士論文を書き上げる。			4		
授業到達目標		コーチングに関する研究論文を理解することができる。 研究課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。 研究をデザインし、計画することができる。 学会で発表することができる。			5		
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係(特に関係する 関係する)					6		
【知識・技能】 修士(スポーツ学)として相応しい専門知識の理論的思考を身につけ、専門性の高い高度な理論・指導技法の理論的な学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。					7		
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、高度専門的職業人として「課題探求能力」、「課題解決能力」を有するとともに、適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論・指導技法を修得し、スポーツとの関りが多様化した社会におけるスポーツ指導・健康づくり指導・教育に寄与する能力を身につけている。					8		
【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、地域スポーツの発展に寄与し、かつグローバルな視野に立つための活動を率先して行動できる力を身につけている。					9		
成績評価の方法(全体で100%)					10		
履修における留意事項					11		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業時は積極的に発言し他の受講生の意見を聞き、様々な意見について論理的に考える。 授業時間後の重要箇所の理解度を確保するため復習を行い、疑問点については早期の解決に努める。 以上の予修・復修については、毎時間120分程度の課題を指示する。			12	
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング 授業中は、どのような場面においても質疑や受講生同士の意見交換を行う。 また、随時プレゼンテーションを行う。			13	
再評価の実施		する	しない	14			
教科書 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					15		
参考書					予復修課題： 授業時の質疑や理解度によって受講時に指示する(目安120分)		

* 領域区分の略号表は巻末索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず UNIVERSAL PASSPORT で確認してください。